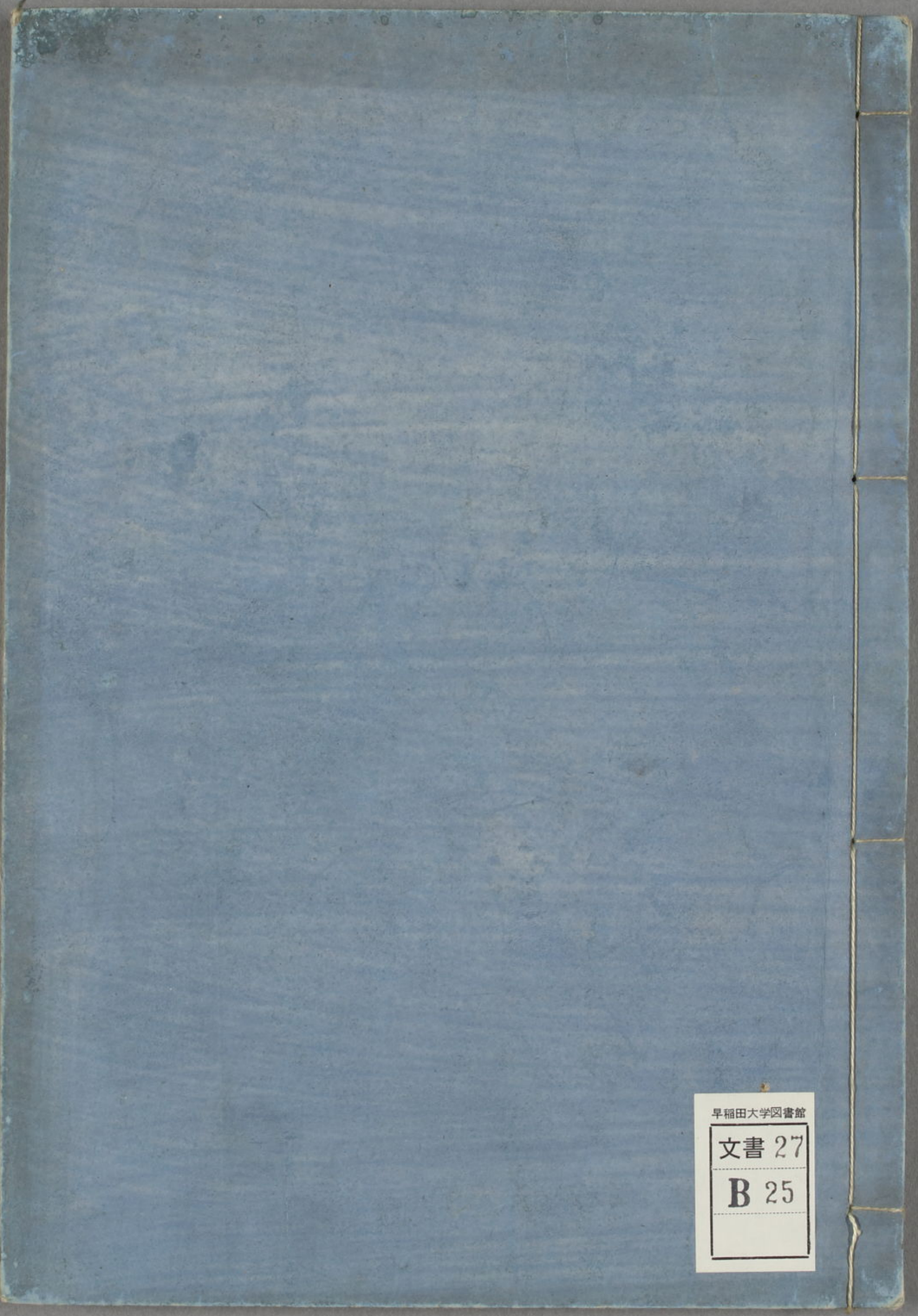

早稲田大学図書館
文書 27
B 25

温戒年

佐賀縣廢藩動
征台雜誌

二月廿日電報

去る二月第一回日韓協約に基き電信及郵便事務
第一期日韓聯合開始に際し韓國政府より派遣せられ
我國に來遊せられたる韓國皇太子殿下には
去る廿日午後七時五十分新橋停車場御着
同八時廿分より赤坂離宮に入らせられ
依例宮中饗宴の儀ありたり
廿一日午前十時より參内せられ
電信上同僚中地位第一等第四級を授けられ
六人奏任一等を授けられたる人氣降を生ぜり

なるん

彼等騒動拡張シ終ニ村落ヲ掠メ饒ヲ
強奪シ良人ヲ縛シ用ヒ使半ナラス古来ノ法律ヲ
滅シ憚ラス
即チ彼等ノ不法暴行等ノ洪水ヲ防禦シ之ヲ平
穏ニ治メ以テ生業ヲ安ンセシムルハ
福島県令ノ任務ニ有之候
半ハ之ヲ尊ク其他少数ノ
破壊ヲ好ムモノヲ鋤誅シ
之ヲ処分スルハ
官吏ノ職務ニ有之候
二月廿

七月廿四日福島県ヨリ電報ヲ以テ
左ノ通申来ル
旧会津藩士族等ノ一揆ニ際シ
一揆ヲ煽動シ人民ヲ誘導シ
暴行ヲ為シタル者ハ
厳重ニ処分スヘキ旨
布告ス
右ノ通ニ付
為念此段申進候也
七月廿四日
福島県令
安場保和
太政大臣
三条実美殿
右ノ通ニ付
為念此段申進候也
七月廿四日
福島県令
安場保和
太政大臣
三条実美殿
追々
鎮台ノ
兵隊
津々
解隊
ニ
相成
候ハヽ
其都度
ヘカラス
金ヲ
以テ
支給
方ヲ
計ラフ
ヘシ
尚連々
帰県
ノ

二月日福智丸ヨリ軍山鎮守将岡(陸軍)伊平屋軍艦将兼艦長(海軍)
せり右ハ海の風靡ハ(ママ)ざるを以て
昨暮九ツ半(午後一時)頃ニ至り仮泊
ス
二月廿六日電報ヲ以テ左ノ通リ達ス
豊成敗ヲ決シテ同電報ヲ以テ大久保内務卿ニ
福智丸ヨリ発信
旧仕方ヲ改メ神武天皇即位紀元ヲ以テ
電報ヲ以テ達ス
内務省ヨリ又同様ノ
(ママ)

二月廿七日大阪ヨリ電報ヲ以テ
通リ達ス
時計ハ午前七時ヲ以テ
被仰出ニ付
(ママ)
(ママ)
(ママ)

佐賀縣平定ノ事ハ電報ヲ以テ
既ニ上聞ニ達セリ扨又今般
凡ソ十日ヲ費シ一書ヲ認メ
普ク人ニ及ヘリ
又ハ
一日電報ヲ以テ
委細ハ
改而
縷々ト
ト」

原
二月廿日佐賀縣
三月廿日
二付
二付
二付

四月行ヒ候ニ付テハ各町村ニ於テモ十分注意ヲ加ヘ候ハヽ十分ノ効果ヲ奏シ得ラルヽハ勿論ニ候ヘトモ尚ホ左ノ一條ヲ設ケ候ニ付テハ各町村ニ於テモ毎月ノ集會ニ際シ之ヲ實行スルノ方法ヲ講ジ以テ其ノ目的ヲ達スルノ必要アリト認ム

第十條　各町村ニ於テハ毎月一回以上ノ集會ヲ設ケ衛生ニ關スル事項ヲ協議シ且ツ衛生ニ關スル講話ヲ爲スヘシ

前項ノ集會ニハ町村長又ハ其ノ代理者ノ外衛生委員及ヒ町村會議員ノ出席ヲ求ムヘシ

第十一條　各町村ニ於テハ衛生ニ關スル事項ヲ調査シ且ツ衛生ニ關スル施設ヲ爲サシムル爲メ衛生委員ヲ置クヘシ

衛生委員ハ町村會ノ議ヲ經テ町村長之ヲ選任ス

衛生委員ノ任期ハ二箇年トス但シ補缺ニ依リ選任セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

衛生委員ハ名譽職トス

第十二條　各町村ニ於テハ衛生ニ關スル事項ヲ調査シ且ツ衛生ニ關スル施設ヲ爲サシムル爲メ衛生委員ヲ置クヘシ

衛生委員ハ町村會ノ議ヲ經テ町村長之ヲ選任ス

衛生委員ノ任期ハ二箇年トス但シ補缺ニ依リ選任セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

衛生委員ハ名譽職トス

第十三條　各町村ニ於テハ衛生ニ關スル事項ヲ調査シ且ツ衛生ニ關スル施設ヲ爲サシムル爲メ衛生委員ヲ置クヘシ

衛生委員ハ町村會ノ議ヲ經テ町村長之ヲ選任ス

衛生委員ノ任期ハ二箇年トス但シ補缺ニ依リ選任セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

衛生委員ハ名譽職トス

第十四條　各町村ニ於テハ衛生ニ關スル事項ヲ調査シ且ツ衛生ニ關スル施設ヲ爲サシムル爲メ衛生委員ヲ置クヘシ

衛生委員ハ町村會ノ議ヲ經テ町村長之ヲ選任ス

衛生委員ノ任期ハ二箇年トス但シ補缺ニ依リ選任セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

衛生委員ハ名譽職トス

第十五條　各町村ニ於テハ衛生ニ關スル事項ヲ調査シ且ツ衛生ニ關スル施設ヲ爲サシムル爲メ衛生委員ヲ置クヘシ

衛生委員ハ町村會ノ議ヲ經テ町村長之ヲ選任ス

衛生委員ノ任期ハ二箇年トス但シ補缺ニ依リ選任セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

衛生委員ハ名譽職トス

極ノ下巻

彼の勢ふ盛なるて後川を渡り人まを而して之を討伐
のごとくなし同くも一般の住民にして旧幕頑固の士原く
相違し私情を主とし一時の権道を以て今日に仏国の
歓心を買とするが如きハ人心を損ずる事甚しく而て彼の中情を
一旦討伐して戈を収るよふハ人心を収攬する事甚
思ふ人まを多く従ふ事ハ門を広くして来るを拒ざるが
故て敵味方共に多く死傷を出すに至る者也

陸軍少将谷干城より品川弥二郎へ与へし書翰之写

今度伏見鳥羽の戦ひ官軍の勝利を得たるハ全く
兵士等の勇敢なるに依ると雖ども其実ハ薩長の
両藩年来の軍備ありて始て能く之を為し得たる者
にして決して偶然の勝利にあらず
今度伏見鳥羽の戦ひ官軍の勝利を得たるハ全く
兵士等の勇敢なるに依ると雖ども其実ハ薩長の
両藩年来の軍備ありて始て能く之を為し得たる者
にして決して偶然の勝利にあらず
今度伏見鳥羽の戦ひ官軍の勝利を得たるハ全く
兵士等の勇敢なるに依ると雖ども其実ハ薩長の
両藩年来の軍備ありて始て能く之を為し得たる者
にして決して偶然の勝利にあらず
今度伏見鳥羽の戦ひ官軍の勝利を得たるハ全く
兵士等の勇敢なるに依ると雖ども其実ハ薩長の
両藩年来の軍備ありて始て能く之を為し得たる者
にして決して偶然の勝利にあらず
今度伏見鳥羽の戦ひ官軍の勝利を得たるハ全く
兵士等の勇敢なるに依ると雖ども其実ハ薩長の
両藩年来の軍備ありて始て能く之を為し得たる者
にして決して偶然の勝利にあらず
今度伏見鳥羽の戦ひ官軍の勝利を得たるハ全く
兵士等の勇敢なるに依ると雖ども其実ハ薩長の
両藩年来の軍備ありて始て能く之を為し得たる者
にして決して偶然の勝利にあらず
今度伏見鳥羽の戦ひ官軍の勝利を得たるハ全く
兵士等の勇敢なるに依ると雖ども其実ハ薩長の
両藩年来の軍備ありて始て能く之を為し得たる者
にして決して偶然の勝利にあらず
今度伏見鳥羽の戦ひ官軍の勝利を得たるハ全く
兵士等の勇敢なるに依ると雖ども其実ハ薩長の
両藩年来の軍備ありて始て能く之を為し得たる者
にして決して偶然の勝利にあらず
今度伏見鳥羽の戦ひ官軍の勝利を得たるハ全く
兵士等の勇敢なるに依ると雖ども其実ハ薩長の
両藩年来の軍備ありて始て能く之を為し得たる者
にして決して偶然の勝利にあらず
今度伏見鳥羽の戦ひ官軍の勝利を得たるハ全く
兵士等の勇敢なるに依ると雖ども其実ハ薩長の
両藩年来の軍備ありて始て能く之を為し得たる者
にして決して偶然の勝利にあらず
今度伏見鳥羽の戦ひ官軍の勝利を得たるハ全く
兵士等の勇敢なるに依ると雖ども其実ハ薩長の
両藩年来の軍備ありて始て能く之を為し得たる者
にして決して偶然の勝利にあらず
今度伏見鳥羽の戦ひ官軍の勝利を得たるハ全く
兵士等の勇敢なるに依ると雖ども其実ハ薩長の
両藩年来の軍備ありて始て能く之を為し得たる者
にして決して偶然の勝利にあらず

佐賀の城暴動の際福岡藩士族の
辛九名のう
ち
二月朱い午年対大阪府知事より内務
電信を以て薩長土肥と偽く我が東京
疑を招かんと欲し
字を写し私かに
うくすを通商の標章
ぬる
なるを以て
写百千余枚を

鳥義勇

其方儀兼而征韓之志有之ニ付
今般之擧ニ抗論ニ及ひ速ニ之ヲ討滅ニ
及ひ候段
朝倉尚武　香川源之助　山本一郎　西栄質
中條澄清　竹上征韓
到候条
牛川英純　竹上英治
其方儀征韓之志有之ニ付今般之擧ニ抗論ニ及ひ速ニ之ヲ討滅ニ及ひ候段
村山七郎　福地常彦

鳥義勇

其方儀兼而征韓之志有之ニ付今般之擧ニ抗論ニ及ひ速ニ之ヲ討滅ニ及ひ候段

横濱ガセット」新聞ニ支那「ダイリーニーズ」ニ載スル所ノ吾国征南
大將ト支那ノ上官ト交ヲ結ビ和ヲ講ジ兵ヲ収メ去ル云々ト書シタル
ノ訳文ヲ載スル今ノ国語ニ再訳メ
登録　征南大將ヨリ支那ノ「アイセロイ」リトイフ贈ルノ書
臺湾ノ番民撫恤殺ヲ好ミ敢テ貴国ノ統治ヲ仰カス雖モ逢
フノ恐濡アテ臺湾ニ至ルニ着皆島嶼ノ害ヲ被ラザルナシ故ヲ以テ
島嶼ノ暴名久シク世ニ聞ヘ前年吾国民ノ雖モ逢テ臺湾ノ漂
着スルヤ島嶼悉ク劫奪スルノミナラス又其命ヲ害シ
其肉ヲ吸ヒ其皮ニ充填又鳴呼彼レ何ノ修ニシテ且ツ悪ナルヤ甚シ
逃レテ貴国統下ノ地ニ至ル着ハ其性命ヲ全フスルノミナラス又貴国

官人ノ思待ヲ蒙ルヲ得メリ貴国恢弘ノ厚キ吾政府ノ深ク慎ム
徳トスル所ニシテ顧ミニ臺湾蛮民ノ如キ教ヲ好ムハ其常ニメ然リ前日
ノ暴ヲ彼ルノミナラス後来ニ至テ又尚如此シ豈又毋ノ責任アル吾政府
夫レ能ク国民ノ為メニ其害ヲ絶ス前以ヲ憑ラガシヤ故ニ吾国天皇
陛下某ヲノ時士ヲ率ヒ臺湾ニ臨ミ其罪ヲ正シ
其残暴ノ行ヲ改メ後来吾国民ノ支那海ニ往来スル者ヲシテ不慮
ノ変ナカラシメント欲メ今兵ヲ岸ニ登スヲ以テ貴国人民ノ無根ノ
説ヲ流布セシヲ恐シ吾兵軍ノ臺湾ニ至ル所以ノ意ヲ書シテ貴下ニ
致ス能ク其意ヲ領セ 其端末ニ係ヲ載スル其一ハ琉球人ノ害ニ
遭ヒ者五十人ノ支ヲ託シ其罪ヲ正スノ故ヲ以テ其兵ヲ岸ニ登ス

モ士番ノ戦ヲ挑ミ鞅止ヲ得サルニ非ス亦敢テ戦ヲ好ムニ非ス
曰ク然リ支那政府ニ請フ所ハ支那及ヒ諸外国人ノ臺湾ニ来リ
ヲ易スル者多シ此輩吾兵ノ臺湾ニ至ルヲ聞キ武ヲ士番ト
結和シ士番ノ為メニ兵餉器械ヲ送ルモ亦来ル知ルヘカラス
如此ハ固ヨリ法ノ許サヾル所ニテ若シ此ヲ企ツル人ノ徒アル如キ
ハ則逮捕セスンハアラサルニ故ニ貴国政府ニ於テ臺湾全島ニ
遍ク令ヲ布キ貴国及ヒ諸外国ノ商人ニ其法ヲ破ラシメ
ニテ番民ノ戦敗シ逃亡シヨリ吾兵ノ貴国統下ノ地ニ至ラハ則チ執ヘテ
我兵人ニ致セ特請

福建ノ「アエセロイ」ヨリ 吾南征大将ニ報書

謹而晝書ニ載ス臺灣全島ハ支那ノ統下ニ在ル番ノ如キ或ハ
化セザルアリ或ハ化スルアッテ而ニ皆支那皇帝ノ地ニ住シ其治ヲ
仰ギ越ニ百年カ如シ」「おこなご」ノアイヌ「千コウ」ノ如キハ
支那統下ノ最モ無智無法ノ表ト称シ其番帝ニ山林ノ間ニ奔馳シ
人類ノ何物タルヲ知ラス猿猴ト伍ヲ攀ヂ臺灣蕃ノ
支那皇帝ノ治ニ化セザルモ亦支那皇帝ノ地ニ居住スレハ則
支那皇帝ノ統下ニ屬スルヿ明ラカニ文陽法ニ曰ク何ノ国ヲ問ス
其列郡ニ現在スル人則是其国ニ生スルト外国ヨリ来ルトヲ論セス
人民ヒ動不動ノ物ニ及ヒ其現在スル国ノ法制ニ服スヘシト有各ノ
律師「バットル」ヲ曰ク何ノ国ノ統下ニ屬スル者ハ其国主ノ如ク皆其

制法ニ服スヘシト又曰ク何ヤ得ル所ノ地是ニ因テモ戰勝ニ因テモ他国
ノ善ニ其地ヲ取ルヲ可トスルニ及テ其地ニ住スル人ハ各国人トモニ
凡テ其新治ニ服スヘキヲ以テ他国ノ如キ此地ニ住ス民人ヲ統御スル
権サシ又曰ク何ヤ苟モ国ヲ司ルノ主ノ故ニ国受
ノ失過ハ乃チ其国之ヲ責ヲ受クヘキヿ右述ル所ノ法律ハ其ノ如クニ
シテ臺灣ハ又支那郡国ノ屬部ナリ故ニ其蛮ヲ誅懲スルノ権固ヨリ
支那国ニアリ黄翰仇ニ臺灣征討アル所以ノ者ハ黄国永客ノ害
臺灣蛮ニ被ルヲ在ルヲ以テス如此ノ臺灣蛮民ノ残暴ナル其罪固ヨリ
支那国法ニ於テ死ニ當ル然ルニ而メ其蛮ヲ誅スル者ハ皆我皇帝陛下ノ領地
ニ在テ住スル故ニ之ヲ誅スルノ権支那政府ニ在テ黄国政府ノ得テ関スル

処ニアラン　又宜シク吾総理衙門ト相談ヘベシトテ今ノ処
兵ヲ臺島ニ送ン何ソ況ンヤ貴国政府ノ交際法ヲ破ル
ノミナラス二三年前約議セシ一条并ニ条々ニ廃棄セント欲ル
右支那官人ノ敦睦スル所ニシテ交際法ト和約ノ忘ニ立ルヲ
以ヲ其口ニ藉ス者ニシテ其他又曰臺湾蛮民ノ如キ之ヲ法ニ所ト
懲戒セシメテ長ク殘黒ノ行ヒヲ改ムヘシトス琉球一島ノ如キ曾ヲ
支那国ノ版図ニ係シ「チヨンシアン」ト古帝国ニシテ教育ヲ
未タ嘗テ献納セス故ニ支那皇帝其国民ヲ見ン程支那国民ノ如シ故ニ
既ニ吏人ニ命シテ臺湾蛮ノ琉球国民ヲ害スル者ノ罪ヲ正カント
スノ臺湾一島国ヨリ支那ノ属地ニ故ニ之ヲ誅スルノ権独リ支

那国ニアルノミ豈何ソ貴国政府ノ得テ容スル所ナランヤ故ニ政ヲ
北京ニ駐劄スル外国公使皆吾為メニ之ヲ防カントス
去年前外務卿副島君ノ支那ニ至ノ総理衙門ト臺湾ノ事ヲ
支ヲ諭スルヤ彼曰臺湾ノ東臺ハ支那ノ化外ノ民ニ之ヲ代ノ
ト伐ムルトハ一ニ貴国ノ意ニ任スト其言既ニ如此シテ今ハ之ニ
又違ス何ソ其愚ナルヤ縦令万国公法ニ籍ノ吾レヲ拒ムモ彼
レ能ク其言ヲ食ムヲ得ンヤ
横濱ガセツト」新聞ニ支那都督「リー」ヨリ西郷氏ニ贈ル書ヲ
今之ヲ叅観　是中将ニ贈書　支那福建及浙江都督「リー」
拝ス

前日貴書ヲ得貴下ノ命ヲ領メ兵ヲ臺島ニ用ル処以ノ意ヲ領セリ
故ニ敬諭スル二支除法ニ拠リ貴下ノ軍ヲ旅ニテ二国ノ約議ヲ履行ニ
ヲ以テ其敬書蔵ニテ今尚ホ室庫ニアリ五月廿七日ニ於テ我カ統軍ノ
将及ヒ臺湾府ノ統臺ヨリ敬アリ曰貴下兵ヲ率テ臺島ニ臺岸シ
我劇省ニ届ス琅嶠市ノ近傍ニ営壘ヲ築キ其比近ニ住スル土番
ト攻戦セリト此ヨリ先キ改ニアンピン」ノ統兵将リーレンハン」ヲ
臺湾府ニ遣リ其副統臺及ヒ他官ニ命ヲ傳ヘ五月廿三日ニ於テ貴下
ノ処ニ至リ敢テ貴下ニ見テ我カ遣敬スル書ヲ受領スヤ否ヲ問ヒム時ニ
貴下答フルニ其書ヲ領受スルヲ以ヒ且ツ告ケテ曰征臺ノ役客歳政ニ
副島氏ト我政理衙門ト高識シ処理衙門ノ之ヲ許可スルニ由テノ
ルヲ待テ敢テ遠ニ軍ヲ旅サヽルニ○其他聞ク処アリ曰五月廿三日貴国屡
ハ領支福島某ノ書記吴領我カ統兵及ヒ臺湾ノ統臺ヲ訪問スル除琅
嶠ニ至リ情勢ヲ審視シ貴国戦艦ノ支那人民ト闘争スルヲ制セ
ントスト其来テ吾カ統兵将及ヒ統臺ヲ見ルニ及テ問フニ貴国兵ヲ臺
湾ニ開ル処以ヲ以テス吴領答テ曰特ニ臺湾ヲ懲戒スルニアルノミ決テ
害ヲ寄居ノ支那人ニ加ヘルニ吾此挙ヲ聞クヤ初メテ疑ヲ解キ容ヲ
臺宝ヲ誅徳メニ国ノ親睦ヲ益固セント欲スル平何ゾ貴国政府ノ吏
誣ニ委キヤ又貴下ノ支ヲ云フ者アリ曰貴下命ヲ受ケノ臺島ニ至ルヤ
至善至恵ノ行儀ヲ顕シ立ニ猜疑ノ意ヲ解キ平和ヲ講ラントスト

此ニ至テ益貴下ノ志情ニ感謝セリ○貴国ト約議ヲ決定セシヨリ年ヲ
閲スル於茲ニ而ヲ永ク約誠ヲ履行セシヲ望リ臺島ノ変ニ至テハ
之ヲ置スルノ方吾未一モ処理衙ハヨリ聞ル者アラス豈ニ変不意ニ
出ンヲ以テ」生リ而今ノ遽ニ貴下其兵ニ将トシ支那ニ属スル別郡ヲ
攻メ吾カ統治スル所ノ地ヲ征セントス抑亦何ニ由ル乎貴ト約誓ノ論設
者ノ言ヲ信ニ臺湾番人ハ支那ノ人民ニ非スト為セカ則千日ヲ干政斉
及ヒ貴下ノ文陳法ヲ破リ将ヲ支那ト諸外国ノ譴責ヲ受ルニ至ラ
ントス故ニ今亦前日進教セシ所以ノ意ヲ反復丁寧之ヲ詳説ス（貴ト諭ス）
ヲ之ヲ撲ヘ臺湾琅璃嶼居ノ支那人及ヒ其土番ハ支那統下ノ
古ヨリ民口籍ニテ明カ」琅璃ヨリ南ヲ三都澳ニ散居スル大社

番亦後吾役建ニ隷属シ毎ニ手ニ千ヲ以テスルノ租ヲ貢シ皆
載テ吾臺湾府ノ賦貢簿ニ在リ此レ吾ニ属スル年ノ証ニ
置キ臺島南北ノ臺ヲ統治シ毎歳深ノ内山ニ入リ其番ニ臺賚アツ
テ其卒市ヲ監スル此ヲ年ニノ証ト為ス「ツアイツアン」又「ツシ
イ」ト名ケシ村市ニ於テハ当朝ノ初ヨリ官相「アーカンガン」ノ功
碑及ヒ祭祠アリ其他記碑ノ存スル者アリ其題年月ヲ見ルニ数百年
前ノ者ヨリ此ヲ三証ニ以上挙ル処ハ臺湾島ノ吾ニ属スル確証ニシ
テ国結約セシ二条ニ曰ク二国各其国ヲ統治スベシ互ニ其国ヲ侵
擾スベカラスト此ヲ以テ見レハ則チ未嘗テ一モ両国内地ニ横行スル
ノ誠ニアラス其他定約スル者在ノ如シニテ貴国ニ於ヲ我属地ニ

抑亦何ノ理ソヤ

并一数ニ曰ク償金ヲ相校接シテ屑盖ノ国タルヘシ亦面歎自
支那数処ノ埔頭ヲ劃シ而ノ自ラ求地ノ地ト定メ又ハ支那沿
海ニ於テ日本ヲ他国ト交戦スルヲ許サスト然ラハ則貴国焉ソ我
カ領地ニ於テ干戈ノ妄ラルヲ得ンヤ貴下之ヲ顧ミス能ク二
岳ノ狼瑞ニ登岸セシノ柵ヲ列シ営ヲ壘ヲ而ノ其土人助テ我
ノ属民ヲ攻伐スル是両国ノ約議ニ悖戻スルノ酷シキ者ニ試ミニ問ヒ
今一国アリ豫メ日本政府ノ処諾ヲ経スシテ妄リニ軍旅ヲ発シ
其ノ領ヲ蹂躙スルアルモ貴国是ヲ耳ニシテ其罪ヲ問ハサルヤ
何如我カ鎮将及ヒ臺湾統臺ヨリ数シテ白ク貴下及ヒ領袁福島

氏言ク客歳貴国大使北京ニ於テ我カ総理衙門ト相議シ臺
湾未完ノ地ハ支那ノ化外ニアルヲ以テ日本ノ義ヲ以テ征討ス
ル処ナリト柳モ両国之和親約誠ナルモノヽ大臣各其君主ノ
命ヲ俟テ之ヲ定メ印ヲ鈐シテ之ヲ証シ国書相齎若クハ互ニ
直千ニ刋行シ以テ左国ニ公布セシ者ニ故ニ両国ノ交際ニ於ケル之ニ拠テ
而メ互ニ識審断セスンハアルヘカラス而ノ今貴下ノ所謂貴国大使ト
我総理衙門トノ約ハ此両国ノ定約ニアラス又支那国法ニ照シ正サニ適合
セルモノニアラサルヲヤ否若シ果メ信ナラハ大臣印ノ約書ニ鈐シ以テ人民
ニ公布シ或ハ使節相往来シ以テ信ヲ天下ニ示サヽル可ラス我未タ嘗
テ総理衙門ヨリ此等ノ顧セシヲ貴下ハ金匱ノ約書ヲ遠ク

臺島ニ至ルヲ以テ必ス其物ヲ審ニセシ且ツ両国政府ノ約諾アル
布ノ字シテ而メシテヲ手セ果シテ貴言ノ如クハ則チ我之ニ服従セシ
若シ其證ナキヤ両国ノ約議上兵ヲ支那領地ニ駐留スルヲ許
サヽルノ条ニ拠テ貴下速ニ其師ヲ返スベシ顧フニ貴国政府ハ臺
島ノ土人貴国ノ漂客ヲ残殺或ハ剣奪セシ件ヲ以テ吾ヲ其巣
窟ニ進メ其蕃邑ヲ討シ復ヘ此挙ヲ為ニ而已今我之カ為ニ一言セサル可ラス其一琉球ハ
メリ其漂民臺人ノ暴殺スル所タルヲ以テ我嚴ニ教ヲ臺島ノ官
府ニ下シ而メシテ之ヲ処治セシム是則チ貴国ノ直ニシテ之ヲ
治ムルカ父母ノ任意ニ貴国ノ如キ外人ノ之ニ干フテ労スルアランヤ

其ニ貴国尾列ノ漂民利八及ヒ其従臺人ノ為ニ衣財ヲ剣奪セ
ラレシト並ニ命ヲ損セシ者アルヲ以テ約議ハ其
地ヲ官府ニ命シテ之ヲ逮捕シテ而メシテ之ヲ典刑ニ処セシム是レ我カ本権
而メシテ之ヲ行フ地方官吏ノ躬ニ我敢テ外人ヲ以テ国民ニ加フ
ルノ意アラス地方官吏モ亦タ我意ヲ体シテ之ヲ為ス可ラス
ヘシ然ルニ貴国奏ヲ不タル盗人ヲ以テ我カ臺湾ニ属セル空
シノ其軍費餉糧ニ充テ秋毫モ我ニ与ヘス而メシテ我ニ向テ
ノ問ヲ和親約議上ニ注カニヲ欺スルハ即チ両国ノ風波ヲ起シ天ノ意
無ラシメンカ為ニ現ニ北京駐劄ノ各国公使ヨリ支那全国ノ人民
及ヒ附属ノ国々ニ至ル迄一致共ニ貴国此挙ノ非義ヲ咎メ今

浅村成幸台湾社業ヲ営ム実事書彼地土風人情且官軍

着港後形情等後覆見スル処八十七日午前十時長崎港ヲ出帆海路安全二十日午前四時當港ニ着
舶直ニ上陸シ熱ト土地凡俗ヲ親見スル蕃蔗ニ其土砂礫多クシテ産スル
処ノ砂糖蕃蔗ヲ以テ最トス山林大木ヲクメ蒼鬱桜梅ノ類尤
モ多シ其他草木総テ本邦ノ植物ニ類スト雖モ未タ曽テ見
ザル処更ニ熱ニシテ常ニ雨多ク一月間晴天甚
日ニシテ着港後今日始テ晴天ヲ見ルノミ其他ハ半日ハ晴天ニメ
半日ハ雨午前快晴ニシテ午後忽チ陰雨晴陰ノ常ナラサル一日間
ニ六変ノ甚キアリ晴日ハ酷熱百度ニ登ルト雖モ土民海湾常ニ清風
ヲ送リ凄涼復タ愛スヘシ

此島元来支那国罪人ヲ流竄セシ処ニシテ土人ノ形状家屋ノ建築
等概ネ支那ニ異ナラス言語文字皆役法ヲ用ヒ重戦上下トナリ業ト
談ヲ以テスレハ一ノ弁セサル者ナシ其文字アリ学識アル者ヲ聞シ
処ニ異ナラス神仏ヲ信仰シ就中関羽ヲ崇敬スル等支那人ニ
異ナラス稍シ唯凡俗一ナラス稍シ煉化石堂ニ居リ洋服ヲ着シ花
美ノ装ヲ為ス者ヲ見ルト雖モ下民ノ輩多クハ裸体ニシテ其凡

至テ素朴ノ動物ハ氷牛九モ多リ毎家皆五六頭ヲ畜ヘリ其他
雞豚等多シト雖モ土民皆狡黠ニシテ其實ハ
貨ヲ賤ク銀貨ヲ貴ブ大ニ笑フヘシ諸物ノ價ハ
スヘテ銀貨ヲ以テ
スルハ恰モ之ヲ愛スルニ異ナラス
ヘキナリ
十八日台湾將卒ハ
偵候セシメン二賊徒山間ニ潜伏シ突然発砲セリ因テ官軍之ニ
忽チ千砲連発賊徒大ニ披靡シ處々ニ乱軍退走ス此日官軍
死者一員アリ賊徒ノ死傷孰モ之ヨリ詳ニセス
アリ
十九日再戦傷者二員
二十日官軍一小隊半直ニ進テ賊徒ヲ撃ツ彼又山間ニ潜伏
シテ連ニ砲発ス彼レ皆平生用ヒ熟ヌル所ノ
業トスルヲ以テ狙撃甚タ巧

ニシテ我少尉軍曹隊卒各一員ヲ斃シ其他士官七名ヲ傷ツク官
軍奮テ十二社ヲ抜クニ及ヒ賊ノ死スル者多シ
今日迄ノ右三戦ノ如キニテ西郷都督着港後未タ一戦アルヘシト
日間又一戦アルヘシト其時ハ予準ヲ従軍ヲ得ヘシト脱帽雀躍シテ
其日ヲ待ツ
シテノ其恢ノ如キニ異ナリ故ニ雨天ノ戦ハ官軍輒ク勝チヲ得ヘシ
其他ノ天ハ頗ル狙撃ニ便ナリ銘ノ本邦猟夫処用ノ刺猪槍ノ
如ク又長太刀ノ類ヲ挽ケル者アリ
等多シ
全期後信再報
五月七日
浅村成幸
竹村尚義君

本月二十三日横濱カゼット新聞征臺ノ近況ヲ聞ルニ日初メ日本ノ軍琅嶠ニ登岸セシヤ土蕃ノ牡丹ノ我ニ屈スルモノ甚多ク懇懃而メ敎千歩ノ地ヲ我ニ賣リ以テ軍柵ヲ營セシム其後一蠻族我ニ警スル者アリ我兵警ツテ其部落ヲ屠ル左部ノ人口概子五十人中千二百長ヲ始トシ命ヲ我鋒鏑ニ隕ス者三十人酋長ノ子モ亦重創ヲ被リ數日ヲ經テ而メ死ス○十月二十日牡丹蠻進勦ノ命ヲ左軍ニ傳フ六月一日昧早三隊ノ兵「カンカロー」ノ營ヲ我カ「フコー」ノ北営ヨリ発シ第十時又三隊ノ兵「セキンロー」ノ營ヲ垂ス千後并五時尚ホ三隊ヲ追メテ先軍ニ継ク二日三隊ノ兵野戰砲ヲ率ヒ先ツ発シ惣軍此夜ヨリ三日朝ニ至ル迄陸續相継テ進行ス晝天色濛ニ沛雨車軸ヲ流シ河流為ニ膨脹シ其勢天ノ如クニ

跋渉スル事ヲ老ヲシテ兵士ノ漂溺スル者四人幸ニシテ其三人ヲ濟フト雖氏一人ハ終ニ奥蠻ノ餌トナル是ヲ以テ諸隊辛フシテ其餉糧銃炮ヲ輸シ而メ対岸ニ達スルヲ得ズ○牡丹カスキエスノ両種族ハ深ク其巣窟ヲ山谷ノ間ニ營ミ山ニ獲シテ而メ肉ヲ得地ニ耕シテ而メ薯穀得以テ食ト為シ常ニ猴狼ト伍ヲ為ス所ノ野蠻ナリ故ニ其奇落ニ至ルヤ嶮岨林莽茂翳鳥道頗ル険難ト雖ニ乗之ヲ高トセス進テ其夜ノ山頂ニ趨ク外此処ニ蠻飼ノ処及水牛群ヲナシ其種ル処ノ馬鮫著亦ノ夥シ我兵射テ数數ヲ斃シ又タ其薯ヲ発掘シ各飲テ之ヲ一飽ス翌四日復ヒ崔嵬ヲ攀千澗谷ヲ渉リ行ク蠻ト小戰又蠻等樹陰或ハ巌背ニ伏匿シ以テ我ヲ狙撃ス兵士皆ニ命ヲ隕ス

者三百人傷者亦之ニ至リ其兵士ニ民豪等之ヨリ我兵鮮ニ當ル能ハス至ル
所悉ク毀焚殺戮ス我兵ノ地形ニ熟スル者アル無ク先日遂ニ牡丹泉官廨ニ入ル豪等
既ニ遁逃寂トメ人影ナシ我兵火ヲ四方ニ放ツ以テ一場ノ焼土ト為ス時ニ
巖僅ニ十歳ナル童女其遺ニ彷徨シ剰千我兵ノ擒ニスル処トナリ○童
僧ノ家族ヲニル二或ハ支那人ト相交雑シテ成ル者アリ或ハ他ノ種族ト
混合ノ成レル者アリ其数十八種并ニヲ「ボタン」ト曰フ人口二百五人資性
敦篤尤モ数ヲ膺ム其酋ヲ「アロツ」ト名ク二ヲ「カバリー」ト曰フ人口
二百三十人資性淳朴人ト交ヲ為シ其酋ヲ「イー」ト称スニヲ「カメ
ス」ト曰フ人口百九十人資性穏愚其酋ヲ「イソ子モツト」ト名リ四ヲ「シチ
ツツ」ト曰フ人口百七十五人資性淳厚其酋ヲ「カートイ」称ス五ヲ「チ
ライ」ト云人口百六十人資性温和其酋ヲ「フールイ」ト名リ六ヲ「ト
チンパイ」ト云フ人口百六十人資性和順其酋ヲ「アーロ」ト称ス七ヲ「カ
ポツト」ト云フ人口百五十五人ハシモヤポリット」ト云フ人口百四十六
酋ヲ「スアントー」ト云フ人口百三十人皆資性温和「トチンパイ」ノ
酋ヲ「アーウ」之ヲ統轄スヽヲ「ロポット」ト云フ人口百三十六人資性温
厚其酋ヲ「マモツト」ト名ク十一ヲ「ナキア」ト曰フ人口百三十人資性上
同シ「ロポット」ノ酋「マモツト」ニ隷属ス十二ヲ「リヤンラン」ト曰フ人口
百二十人資性淳樸其酋ヲ「ヒナレー」ト称ス十三ヲ「ビカ」ト曰フ人口九
十人資性上ニ同シ其酋ヲ「シギユ」ト名ク十四ヲ「アトゲキン」ト
云フ人口八十六人資性不良「ビカ」ノ酋「シギユ」之ヲ轄領スヽ十五ヲ

「トラソユ」ト曰フ人口七十四人資性淳樸其面ヲ「トートツク」ト称ス裕
ニシカントニ」ト曰フ人口六十人資性温和其面ヲ「アサム」ト名ク十七ヲ
テキシヤ」ト曰フ人口五十二人資性獰悪其面ヲ「センリン」ト称ス
大人ヲ「コクルツ」ト曰フ人口五十人資性上ニ同シ其面ヲ「パーレー」ト
名ク是レ則チ性質ト人口トノ概略ニシテ臺蕃提スル処ノ銃其筒長ク
而ヒート其火ハサク臺木短カシ方今各国ニ於テ用ユル処ノ者ニ比スレハ
其製極メテ不利極メテ粗悪ニ試ミニ臺ヲシテ洋銃ヲ携リ樹蔭或ハ
茅陰ニ散布シ而メ日本兵ヲ想撃セシメハ更ニ傷亡ノ夫シ程ニ止
マラン乎是レ臺蕃ノ不利ナル実ニ日本兵ノ天幸トスツヘシ
臺湾五番地亀山ニ在営スル柔国ニ等軍医正ヨリ東京陸軍病院長

一等軍医正ヘ報告スル処ノ書翰

本月一日ヨリ愈進撃ス途道峻嶮ナル処諸兵大発憤発ス臺蕃ハ色ヲ変シ而
ヨリ深山幽谷中僅ニ茅屋ヲ結ヒ五棟或ハ十軒多キモ二十軒位ツヽ群居シ
既ニ 皇師ノ至ルヤ家ヲ捨テ遁逃シ一人モ家居スル者ナリ（林軍醫監
ニ聞ニアツ
チンノフト
恰モ似タリ）樹間音ヲトヨリ不意ニ発砲シ出没形ヲ見セス因テ
小隊彼地ニ屯宇 舎ヲ本営ニ引揚タリ○皇師連勝ナルヲ以テ傷者
実ニ少シ○医官一同非常ニ尽力営内ノ検生飲食ニ至ル迄懇細ニ
注意スル故ニ疫病ニ罹ル人極メテ稀ナリ偖シ憂フヘキハ一種奇病性
熱病流行シ急性ノ者ハ経過最モ速ニ汎ニシテ既ニ馬医神菊地宗成ハ
之ヲ為ニ斃シタリ全軍為ニ悲ミ葬ヲ厚クセリ僕此病性ヲ察スルニ

蓋シ所謂ニアスマ性素褻土熟ナラニ尚其証候原因治法ノ詳ハ後便啓
致セン然レ共前文ニ述ル如リ医官ノ注意密ナル故ニ此病ニ罹ル者多ノ
ラス假令之ニ罹ルモ一週乃至二週ニシテ治ス○予ノ陣営ノ築功ナク
ス故ニテント中ニ屯集シ茅屋ヲ構成シテ病院トナスノ已ム此除吾
曹尤モ尼カスヘキ時期ナリ○昨朝ナリ○野蛮牡丹社ナル鬼狄ハ其蛮族些ニサテノ
大率三百人許其人トナリ実ニ猫猴ニシテ虎心ヲ具ヘタル如ク先悍
残酷猛銃ヲ携ヘテ険岨ヲ走リ躡侍素足毫モ人心ナシ嗚呼地上ニ此
人ヲ生ス造化ノ意亦疑フヘキニ○軍人吾曹ノ依頼スルヲ慈母善ニス
君曹豈ニ之ニ容ヘサルヲ可ケンヤ○現在ノ病院ニ在ル者銃創十四名雑
病九名今便長崎ヘ航送ス○　皇明治七年六月廿日亀山ニ於テ誌ム

本月一日在臺島兵牡丹ヘ大挙進入ノ際雨乃生蕃ノ巣居ヲ放火
シ時蕃女ヲ生擒ル年約スル二十二歳色黒ク面円ク鼻低ク眼落ク
二寝ナリ既足ニテ渓谷山巌ヲ亘ル恰モ猿猴ノ如シ之ヲ本営ニ送ル都督
之カ衣裳ヲ脱シ自地ノ活衣トヲ換ルニ跳ノメリニスノ帯ヲ與ヘテ華衣ヲ着
セシム蕃女ニテ日本兵ノ如リ見ル者皆故郷ノ念ヲ起スト云

日本征臺ノ一挙ニ付日本支那両政府ノ間議論頗ル沸騰ス
(機密ニ渉ルヲ以テ略ス)
那政府専ラ二至ラントスルニ際リ支那政府専ラ日本ノ師
ニ旅スルニヨリ告リ日本政府各ヲ日我朝堂積力微弱ニシテ兵ヲ
気撓ヲ柳ルスルヲ能ハスト之ヲ聞ク者必ス謂ラク兵モ亦国民ノ其ハ
政府トシテ其国民ノ賀節スル能リスニハ則チ政府ノ処以ノモノ何ニ

在ル大佐ヒ氏日本此一役ヲ奉シ以テ蓋シ日本ノ兵士輒ク近支ヲ好ム／
志気旺盛和内動モスレハ土萌ノ患アラントス故ニ輜ク之ヲ
閫外ニ発遣セント欲スルヨリ出テタリ是レ実ニ日本政府真兵士
ヲ経治スル能ハサル斯ク支那政府ト鋒ヲ交ヘス徒リ駐臺ノ軍隊ヲ
兵士ヲ政府ノ命令ヲ遵奉セサルカ如キ是則教導ノ我武ノ精ヲ
挫ク与ニ共ニ敵人ヲ誅滅セント

東京廿一大正七年十一月中橋和泉町一番地宇垣師松蔭晋二十九才ノ書ヲ陸軍
省ノ命ヲ奉ケ征蕃ノ王師ニ従行現ニ蕃地ニ在テ臺島ノ落口及ヒ諸島
海峡ヨリ山林川沢土俗屋舎其他島嶼花菓ノ類且行軍対陣攻撃

戦闘ノ実景ヲ写真スル暇ヨコロ晋二ヨリ家郷ニ寄ル処ノ信書ヲ得タリ左
ノ如シ
一日ヨリ雨且雪ス　此日風凌ク竹社ヨリ石川ノ三七所ヨリ攻撃ス土人襲撃
及ヒ援兵トシテ従行ス　土人ノ上ニ寺ノ大二文字ヲ黄ニ庄ニ紙片ヲ捻ニ
記スアリ家ニ帰テ火ノ
同二日晴天　昔竹社ヨリ進撃ス途ニ賊据ラス偶テ残ル所ノ生蕃
或ハ叢茂中ニ穴ヲ穿チ其体ヲ填ニテ我ヲ狙撃ス故ニ死スルモノ二人
歌ハ家ヲ捨テ財ヲ恵ノ次テ四方ニ離散更ニ戦地ノ景状ナシ従来険ノ我兵皆之ニ苦メリ

石川口ノ牡丹社ノ前ニメ最モ要衝ノ地ヲリ西郷將校コニ出張スト雖ニ是亦抗敵ヲリ皆去テ所在ヲ遁セリ

同三日晴天　風湊口ヨリ竹社口ヘ向ヒ我兵轉ノ石川口ニ赴キコニ本営ヲ結フ

同四日晴天　牡丹口ヘ向テ敵兵凱旋シ帝ニ小隊ヲ殘シ以テ守ラシムト云フ

十二月ノ女子ヲ捕ヘ之ニ具ヲ服ヲ与ヘ尊ノ本営ニ送極ス

生蕃ノ所在更ニ知レス皆深山ニ潜匿ス我軍ノ意蓋シ今後此地ノ開拓ニ著手アルカト思ハル

同五日晴天　皆寒ク暖儀九十七度ニ昇リ天気頗ル暑シ

追啓アリ曰ク出張ノ諸君ニ大目的違ニテ別段利益ノ事及ヒ諸産物モナキヘ皆頻リニ帰心アリト

在蕃吉海長哉ヨリ小笠原政ヘノ書翰

（朱文略ス）

十月二日午前廿十時目進艦兼組午後四時抜錨発艦之処風雨猛烈ニテ

港口投錨翌三日天気晴朗午前廿七時先ツ発シ午後四時

本艦次テ発シ孟春三邦ノ未ダ発セス幸ニ八波穏静航海安穏

七日午前廿十時臺湾鳥雞籠港ヘ着艦石炭用水等積込ノ為

小生松村少佐等ト上陸之処漢家屋雑居市街狭穢其実屋ハ尾

芦土石ヲ以テ屋根ヲ葺キ小舗樓ヲ見ルニ足ラサルモ其風俗ハ大

抵支那ヲ模倣シテ視覚稍ヤ着十ノ八九ヲ占ム而シテ其物産ハ

米粟最多シ他ニ石炭砂糖茶藍等ヲ出シ山ハ耕牧ニ宜シク海ハ製塩ニ利アル

ノ景況ナレ共土民固陋懶惰ニシテ農商ノ如キ力ヲ尽サヾルヨシ支那ノ地方官一人

秩従史一人在留スト云共徒ニ回漕ヲ累ス寺スルノミ更ニ日新ノ志ヲ世之趣ヲ
英商會社人ノ説也土民等我輩ヲ視テ驚恐之容体ニ候ヘ氏群集雲ノ如
本邦嘉永代ノ洋人ニ於ル一般也翌八日午前廿九時大八洲ノ肩ニテ抜錨
発艦九日晴澎湖島(ヒスカトン)嶼ヲ右舷ニ臺灣府ヨリ未ノ方ニ至ル諸山ヲ
左舷ニ見テ航海十日午前廿八時許ニ琅嶠ヘ投錨ス有功丸ハ先
旨着港明支払ハ過刻着港之由ニテ破泊之夷糸後谷幸松両参事一同
上陸之処福島参謀カスセルニワスリニ等ト商議之上改ニ土人ノ用
意地九万坪借受ケ談判相済墨壁ヲ指揮シ諸営ヲ戍ノ方向ニ画シ千
配大略相整居夷當地名称シテ琅嶠ト云中央ニ條渓水アリ東山ヨリ
流レテ西海ニ注ク故ニ分称シテ渓南渓北ト云東ハ山ヲ隔テ生蕃ト

ハ社ト界ヲ接シ北ハ支那属地ヨリ彊ヲ劃リ南西皆海ニ臨ム東西或ハ三里
余或ハ一里ニ不足南北凡二十里許ノ幅員ハ是琅嶠之熟蕃地也其人躯
幹長大其面貌黧黒唇厳歯染殿ナル者ハ蓋狡猾ニ住スルト模擬ヲ嗤ム
トヲ以テ其性質固陋粗鄙ニシテ礼義ヲ知ラサル也其言語ハ方言漢
語ヲ雑用シ声音倶備果ノ鴃舌ヲ不受也席序ノ設キヲ以テ文字
知ル者甚ヲシク偶文字ヲ知ル者ハ村夫子之類ノニ処シ漢字ヲ以テ倍文
ヲ綴シ情意相通スヘキ也既ニ小生土人忽接謁之内意ヲ受ケ御宿之
林海国林文仲等ト日ク業ニ漢文ヲナシ久シク倍檝ニ比スレハ間容
無滞奇妙ニ是ヨリ先キ土人等我邦ノ来ルヲ以テ大ニ驚恐シ各自
弓箭小銃槍刀等ヲ挺帯シ恰モ敵ヲ拒ク如キ形勢ナリシカ漸次ニ

更情愛徹シテ我兵ノ柔ルカ見ヘ牡丹ノ同胞ニシテ土人ヲ害スルニ非ンヲ惜リ皆歓欣愉悦爭ヒ来テ方物ヲ献スルアリ食料ヲ与フルアリ宿後ノ為スアリ所謂掌食壺漿シテ我 王師ヲ迎フルノ形勢也是レ我兵ノ彼等ニ善スルノミニ非ス抑シ熟蕃人ノ生蕃人ニ殺害セラルニ忍ス且ツ勇ニシテ勝ツ能ハス故ニ生蕃ヲ視ル仇敵ノ如ク又之ヲ懼レ虎狼ノ如ク徒ラニ其鋒ヲ避ルヲ以テ幸トセルカ今我兵来テ生蕃ヲ討ツ尚ホ怯心戦力誓テ数十年来ノ深怨ヲ報スヘシトテ人ニ自奮之景況真ニ快心之至リ〳〵土人ノ凡倍ノ大概雞篭ト大同小異ニシテ裸体跣足ノ者多キノミ但ニ頸ニ尖頭箭等ヲ戴キ手ニ長柄武爭ヲ持ツ之ヲ守ル全ク避暑ノ臭ト寒セラル十三日孟春十四日三郎着港之事

此地気候ニ扁九十余度夜七十余度ニシテ晴ニ乏ルアリ十八日ニ非常ノ暴風雨大雷ニテ渓水漲溢其深一尺営中頗ル騒動セリ暴露ノ艱苦御推察ヲ乞フ同午前八時散集兵前山ヘ屯営舎牡丹人襲来之旨土人急報ニテ小兵候五六名出先ヨリ山中ヘ進入之処帰途深林中ヨリ牡丹三十人斗一斉ニ銃一発発銃ス即死一人手負有之栄中ノ様子後便ニ付ス

青青台湾琅嶠本営誌

前文略ス五月十八日午前六時散集兵ニ昨夜歩兵一小隊加営ノ旅人半時行程回重渓尽ニ転営セントスルニ臨ミ牡丹社ノ百人計襲来シ土人ヲ殺戮シ我兵其地ニ至ルニ及ンテ彼遁走一人ヲ不見故ニ兵候六人ヲ遣シ之ヲ探索セシムルニ敢テ人ニ重渓ノ間ニ潜伏シテ忽然狙撃ス死傷四重渓ノ間ニ潜伏シテ忽然狙撃ス死傷

二人アリ因テ援兵ヲ請ヒ二敵早已ニ退散セリ○二十一日為作候十九大隊下士官
以下十人ノ四重渓ニ出ス漸ク進ミテ三重ヨリ生ノ渡ルヲ以テ牡丹ノ伏兵敵ニ
発シ我兵ヲ撃テ之ヲ退ケ傷者二人アリ之ヲ見テ益ス二人ヲ死シ二人ヲ傷クルトス○二十日午前九八時ヨリ四重渓
辺土人ヘ嫌疑ノ形迹ヲシテリ兵若干取揚ケノ為陸海兵凡ソ二百人討ヲ出シ
毎戸探索悪ノ兵器ヲ獲リ遂ニ進テ双渓口ニ至ルニ牡丹人岸上ノ深林或ハ
渓間ノ巨石ニ埋伏シ或ハ墓場ヲ築キ我兵ノ進ムヲ窺ヒ
距離凡ソ七八間ニシテ忽焉狙撃ス因テ戦争凡ソ二時間計ニシテ兵ヲ
左右ニ分チ山上ヨリ墓場ヲ夾撃ノ処敵退散ヲ中央左右三面ヲ追撃シ
首ヲ斬ルヿ十二級兵器ヲ獲ルヿ算ス我兵モ死四人傷十人アリ午後四時兵
ヲ収メテ凱旋ス此ノ戦争ハ我ヨリ之ヲ開スルニ非ス彼ヨリ暴ス元スルヲ以テ
本日午前九時西郷都督新規買入ノ高砂丸社寮丸二船ヘ兵隊凡千
三百人并人夫若干粮薪等ヲ積込ニ着港セラル孟春艦同時ニ厦
門ヨリ帰着ス支那軍艦二艘午前十時頃入港翌二十三日都督ヘ面會ノ
上支那艦長格別ノ談論モ無之尋常談話而已ニテ帰艦ノ由ニ支那艦
二艘共本日午後発艦支那ヘ帰国ス○二十日初度ノ合戦ニ愉快ノ勝
利ヲ得且ツ都督モ到着ニ付テハ兵気益振ヒ為国家進テ死スルモ
退テ生ルノ形勢且ツ熟蕃人等ハ我兵威ニ籍テ数千ノ深蕃ヲ説ク
ヲ得兼テ我国ノ強キヲ恐レ皆歓欣愉悦暫時ノ間ニ数社ヲ平ケ
及ヒ昨日ハ生蕃千ラソウノ酋長ヨンクソン」サバリノ酋長イサリ其外

五六社ノ酋長等配下三十人許ヲ率テ社裏ニ来リ都督参軍ニ面謁ヲ乞フ
則都督参軍左ノ課面書ノ如ク畢竟三千百ノ勝利ノ牡丹ノ酋長即此ヲ前ヲ
失ヒ且ツ其子ハ一昨日重創ニテ死シ都合死ス者三十人其他傷者モ有之
発途ニ付生蕃十八社震動戦栗シ牡丹其外一社ヲ除ク外十二社挙テ帰
順陣参之旨願出発由ニテ牛一頭雞数十羽ヲ相贈リ何成尺命左ニ可
従ト申十六社ノ人民ハ助命致呉発隊之趣因テ右酋長等ヘ章旗可
渡ニ付他日牡丹進撃之節彼等脱走セハ速ニ捕縛本営ヘ可差出旨相命ス
皆差服致退社発途実ニ愉快之至此カニテハ東ノ方車城鎮定ニモ可及
云々

　　　

出張ヲ命ゼラレ建築物ヲ構造セシメ
営業ヲ為シ其ノ都度出願シテ許可ヲ
受クルヲ要シ且ツ其ノ地方ニ於テ
永ク居住スル者ニ非サレハ土地ヲ
所有スルヲ得ス
一、官員西山某ヨリ来報ニ在清国友人ヨリ来翰ニ云ルアリ今般本
朝ヨリ臺湾土蕃ノ征討スルニ付清国政府多少物議ヲ生シ頃ン
容易ナラサル事情アリシカ我全権公使柳原氏到着後懇々懸合
セシ彼国大臣モ我義務ノ当然ナルヲ感心シ頃ニ物議ヲ止
メタリト若一着ノ誤ノ不測ノ異変アラン事ニ談笑間ニ和戎ノ保全ヲ
内外ノ物情鎮静ニ至ルハ実ニ皇国ノ幸慶ニ堪ヘスト云ヘリ

横濱ニカセツトル新聞ニ支那総理衙門ヨリ吾政府ヘ送ル書ノ漢文
ヨリ英文ニ翻譯セシ者ノ載スル今又之ヲ国語ニ訳ス

貴国ト支那ト和約ノ条定セシヨリ二国ノ交誼日ニ益厚シ客歳副
島外務卿ノ吾ニ至ルヤ当ニ懇待ヲ尽シ安ニ肝膽ヲ吐露シテ其議
ノ相高量セリ回ヲ昔柳原某遍麦鄭某又副島卿ノ命ヲ頒シ
吾カ総理衙門ニ至リ質スニ三條ノ麦ヲ以テス其一ニ曰ク「マカシ」
島ハ支那ニ属スルカ「ホルト」ガン」ニ係ルカ其二ニ曰ク高麗ハ独立
シテ支那ノ属タラサルカ其三ニ曰ク臺湾ノ蕃堂残暴ヲ琉球人ニ
加フ故ニ使ヲ発シテ其罪ヲ責メントス貴国以テ之ヲ如何ト為スト吾
総理衙門一ニ其情実ヲ詳ニ告ケ是ニ於テ貴国使節其言ヲ鄭重ニ

廿四日ノ閣議ニ於テ更ニ其ノ事ヲ議シ
吾輩ノ意見ハ既ニ屢々之ヲ述ベタリ
二国政府ノ間ニ往復セラレタル文書ハ
門ニ告ノ者アリ同日本兵ヲ臺湾ニ送リ
聞紙ニ言フ所ノ如シ
船渡ノ港ニ寄泊シ其兵士ヲ陸ニ登セ
堤ヘルノ地ヲ択ビ戦闘ノ支度ヲ講セシヲ請フ
其国軍将ノ命ヲ受テ臺湾ヲ来レリト
其兵ヲ以テ之ヲ驚カスカ如キ吾ヨリ一モ来タ
更ニ一モ官廨ノ設ケアルヲ聞カス

此ニ於テ同盟ノ国ト結ヒシ約誼ヲ忘却シ
日本ノ属タルヲ明カニシ永久ニ
高麗ノ支那ノ如キ千支那ノ能ク之ヲ制スルアランヲ欲スル臺湾ニ使ヲ送ルハ
則チ他ナシ日本人民ノ臺湾ニ至テアラン能ク之ヲ待シ残暴ノ行ナカラ
シメン為ニシテ同ヨリ兵ヲ臺湾島ニ用ントスルニアラス況ンヤ使節ノ言
如此シ乃以為ラク此二国親睦ナルニ因ン故ニ臺湾蕃ノ或ハ日本使
節ノ命ヲ聞カサレハ則二国ノ兵ヲ以テ東西相討チ遂ニ剿絶スヘキヲ
○副島子ノ帰朝ニテ始理衙門ノ為メ語テ曰ク二国常ニ約
誼ヲ履行シ互ニ其国ヲ侵擾スル無キヲ欲ス副島子対テ曰ク
国ヨリ其欲スル所ヲ問ハン○副島子ノ其国ニ帰テ後チ

ノ俗ヲ変セス其好ム所ニ随征セシメヨノ言ヲ守ルヲ以テナリ如此ノ類ハ独リ臺島臺ノミニ非ス四辺ノ臺ハ皆ノ臺ト雖モ支那ノ地ニ住スルモノ皆支那ノ民人ナリ此頃吾地方ノ教ス者アリ曰ク二師ヲ起シ吾地ニ住スル臺湾臺人ヲ謀セントストカメンヲ聞クヤ疑ヲ信セス以為ラク此レ傳聞ノ誤ニテ遽ニ兵ヲ吾カ地ニ用ルノ理アラコヤ然レ民黄国臺島ヲ妄ニ深察熟考ニ国ノ和睦ヲ生スルニ足ル顧クハ黄国臺島ヲ妄ニ深察熟考ニ国ノ和睦ヲ破ル勿レ

支那同治十三年三月二十六日

支那公理衙門外務執政某侯ヨリ再拝

日本外務卿副島殿

高海ノ長安ヨリ書

南京ヲ去ル幾日ニシテ芦花ヲ過ル一書ヲ裁シテ寄セ為ニ縷々ト天下ノ事ヲ論シ切ニ交際ノ親厚ヲ説ケリ人トナリ慷慨ニシテ気節ヲ重ンシ交ヲ校歎ノ末ニ結ヒ其ノ交ヲ校歎ノ末ニ結ヒ其ノ交ヲ校歎ノ末ニ結ヒ其ノ

一万ノ王兵ニ抗セントセハ其敗亡掌ヲ指ヲ如シ嗚呼已哉

爾等自愛中ニ云ヘ憶曾テ日本ノ消息ヲ聞クヲ得メリ日本ノ兵ヲ臺
湾ニ用ユヤ已ニ中國ノ朝廷ニ請ヒ並ニ上諭有テ兵ヲ調ヒ助ケ攻ム今日本
已ニ往テ吉達ノ生蕃ヲ撃ツヲ傳聞ス是国皇帝陛下特ニ大臣北条ヲ
簡ヒ国旨ヲ奉帯シ流矢大負西郷カ営塁ニ馳赴セシムト又聞ク日本ノ
兵士臺湾ノ南境ニ居ル降ニ依テ営ヲ結ヒ甚平安ト兵氷土宜ニシテ
又恐クハ疫病ノ致サシムル之ヲ或人ニ聞ク云ク日本ノ往テ生蕃ヲ勦滅
朝其前罪ニ任セテ嗚類無ラシムルモ亦幡然ト悔改シ独リ臺湾尺寸地モ
割取スル能ワサルノミ○京師最近ノ消息ヲ聞クニ上諭時ニ前任江西ノ巡
撫沈ワカルノ○臺湾ノ事ヲ以テ福建全省ノ大吏ニ命シ兵ヲ発シ糧ヲ
裹ト為シ諭シテ日本ヲシテ即日兵ヲ息メシム倘日本命ニ抗シテ従ハス
則我朝ニ於テ水陸ノ勁旅ヲ調遣シ以テ進攻セシメ以テ其ノ逆ニ
駆除ヲ為シテ臺郡生民ノ患ヲ為スコト無ラシムルノ意ナリト云フ○
消息一ナラス彼ノ云フ所ノ如キハ助ケ攻ムト雖ニ退カシムトニツノ者
正ニ大ニ相反スル前日日本人ニ将サニ進ンテ臺厝ヲ攻メントスト此實ニ東ニ声
ニテ西ヲ撃チ以テ我防守ヲ懈ラシムルノミ其詭詐ニ蹈ム是ル可シ
駐港領事モ亦姑ク兵ヲ流ヘ臺ニ往テ以テ風俗ヲ観ント倘ノ必ノ悪意多ク
ナラシヤト然ニ民間ノ是役ニ於ルヤ軍士雲ノ如ク船艦林ノ如ク糗糧萬艘
ハ則二年ノ蓄ヒヲ費スト雖ホ之ヲ蠲ク生蕃又美リ必如是大挙スルヲ説者云フ

京師中ノ人初メ日本用意ノ在ル処ヲ知ラス惟知ル数百人ノ往還セル臺郡ニ赴セシメ生蕃居処ノ地ニ於テ山ヲ焚キ沢ヲ烈シテ以テ前憾ヲ洩スノミト今日本ヲ見ルニ其志小ニ非ス旌旗営ヲ蔽ヒ戈矛日ニ耀キ軸艫海ニ横ハリ鎗砲雷ヲ発カシ竟ニ椰子ノ兎ヲ搏ツカ如リ其全力ヲ用ユ其将ヲ中国ニ利ナラシムルノ心アラントスルヲ知ル此ニ因テ前後遣ル処防臺ノ兵既ニ二万有余蓋シ日本ヨシテ我備着ルヲ知テ逞フセサラシムルヲ欲スルニ若シ其徘徊シテ去ラス人情ニ惮テ天命ニ畔キすハ則文告ノ後必ス弛ノニ武力ヲ以テシ将サニ生蕃ニ勠シ亜攻撃セントス日本嶋漁民大ニト雖モ狼猟シテ遠ノ随シサランヤ説者云フ中国ノ陸兵両ヨリモ多ノシテ水師ハ則如カルニ似タリ日本ノ鋭艦巨砲恣ノ泰西ニ購ヒ之ヲ衝キ浪ヲ渉ノテ長ル処ナク其火器ノ精ニ至テハ欧洲ニ於テ今中国ト敵スト雖モ亦タ別製造ノ舶有リト雖モ是ニ学スニ皆炮艇ノミ舶ノ巨ナル砲ノ利ナル中国嘗ヲ二等ヲ照ルヘシ故ニ陸ニ戦ヘハ則日本ニ優ルヘシ如シ水ニ戦ハ則正ニ本ノ底誰カ手ニ応スルヲ知ラスト顧フニ此ノ千四人ノ外ノ兵ハ義ヲ以テ戦ヒ師ノ道ヲ以テ止ム也日本ヲシテ甲ヲ巻キ旌ヲ偃セ翻然トシテ逝カシメハ斯已ンヌルノミ若シ一矢ヲ以テ相加ヘハ則主客ノ勢改ニ殊ニ労逸ノ形自ラ異ニ並ニ一戦シテ之ヲ駆ルニ雖カラス

香港循環日報 近日接ス前日本ノ郵傳其兵ヲ臺湾ニ用ル消息亦復タ大同小異甚相違カラスシテ日本国三千ノ驍騎ヲ以テ馳テ臺境ニ抵ルノ後尚未タ兵ヲ増シ餉ヲ増スコトヲ聞カス恐ラクハ両国兵戈ノ

禍或ハ之ニ由テ構セシ現ニ聞ク我国已ニ欵使ヲ遣シ節ヲ持シテ駅ヲ
日本ニ赴カシム大旨ハ則請フ日本国速ニ師旅ヲ撤シテ轉注ニ帰リ
勿シ倘其レ徘徊去ラズシテ我カ土疆ヲ蠶食シ我カ黎庶ヲ殘セハ則惟
讐讎ニ属シテ以テ従変ス有ラン此即チ我国衆文告ノ詞ニ或ハ云フ日本
ノ兵号シテ嶼浦ト称ス自ラ云フ前日請雉ノ功有ルヲ以テ試尾飛揚テ色
ニ形ハル往テ臺湾ヲ攻ルヤ特ニ一度其雄武ヲ逞フセント欲フルノミ一旦其
志ヲ甲ヲ挫シ馬ヲ秣シテ退クトモ其心ノ在ス処ハ外ヲ失ス此ヲ以テ之ヲ
決スルニ兵連リ禍結フ高千必遠カラザルヘシ顧フニ理直ノ師壮ニ
気盛ナルノ言宣ノ我国家国ヨリ恃ヲ以テ恐無ク可シ臺郡ノ一隅天設ノ
険水ニ風涛之険恐ヲ陰ニ山逕ノ崎岖アリ生蕃ノ居ル外壁立万
仞嶮ヲ負ヒ内深林ニ蔽ハレ草徑ニ通ス我カ兵ノ入ルヤ彼ハ則
其真能ノ飛渡ヲシテ先勝ノ一ヲカラサル者ノ一ニ乗ヲ戦艦志ヲ奏シ而ヲ
用スト雖モ恐クハ兵半ハ新ニ制セラレ設スルニ非ス一旦ノ力ノ敷盛ニ過ハ
必注泊スルヲ能ハス想像ヲ鶏籠山下実ニ弱水ニ近リ秋毫載セ
サルノ船モ至レハ則沈ム此勝ヲ以ヘカラサル者ニシテ日本統ル所ノ兵僅ニ三千
ノミ後日ノ師ヲ済スト雖トモ未タ知ルヘカラス而ヲ我国駐臺ノ兵已ニ
二万有余一度冬ノ下ルヲ聞カハ立所ニ即チ鋒ヲ交ヘ独リ衆寡
懸絶ルノミナラス主客ノ勢帯逸ノ形亦遥ニ異ニ此勝ツヘカラサル
者ノ三ニ西字日報ニ此役ヲ論ノ曰中国臺ノ文移告誡ノ辞リ親ヒ
亦日本ト誠ヲ元ヒ公ヲ布キ相見ルニ天ヲ以テスト云ヘリ台湾本中国ノ

版圖ニ屬スル日本ノ豪ノ之ヲ兵ヲ侵シ境ヲ犯スト云フ當ニ理ヲ以テ之ヲ折シ之ヲシテ遠ク竄レシム而シテ加ヲ戒ノ命ニ托シテ從ハサル人ハ則必戰ニ出テ
日本ノ兵ヲ駐屯シテ之ヲ境外ニ出ス台亞ノ言順ヲ倚ヲ權シテ先ツ
ヲ以テ中国駐台ノ兵現已ニ雲集霧消スル区ト為シ日本ノ由士三千
何ヲ以テ相當ニ足ラン而軍相接スルノ時已ニ形シ中国必勝券
ヲ操ルヲ見ルヤ決セテ亜細亜東方ノ諸国日本ヲ推テ巨擘ト為シ
恥トセラ海外ニ旌視スル島国ト為ス地勢便利実ニ真雲ヲ
把ス說者云亜洲ノ日本有ルハ猶欧洲ノ英国有ルヤ如シト並来又欧
洲ノ諸言文字ヲ倣効シ政治制度悉ク英格致ニ並ヘトシテ日ニ上
リテ以テ泰西ニ抗衡セントヲ思フ能ク欧洲ヲ学ヲ者當ニ日本

ヲ以テ最先トナスヘシ乃チ且ニ中国ニ取ラシテ欧洲ノ諸国之ヲ
闖ヲ將ニ之カ告ノ二嗾是セサルヲ無カラントシテ西国一切ノ学術
掌ニ更ニ中国ノ為ニ恥ヲ雪ヘシト必指摘多端動モスレハ誅剿ヲ起シ
嗣後泰西ノ諸国當ニ中国ト仇ヲ尋キ釁ヲ開カシムルニ至ラン此
將来必至ノ勢ニ所以ニ日本此ニ於テ尊ヲ増シ勇ヲ煬リ其脅
カリ大高テ以テ一戦ヲ決スヘシ然ラスンハ立前ニ真蹈ノヲ
日本ニシテ今ノ時ニ在テ蟄虎ニ騎ルニ同シク麦虻ヲ惜ルニ異ニ
進ニモ退ニモ能ハス而人ノ日本ニ左袒スル者故サラニ兵ヲ挙テ
収メラルルヲ知テハ其前端ヲ誚ルニ留キサルノミニシテ国威
ニ於テノ尚損スル所ナシ若シ必ス戰ニ出テ敗セハ則勝一ノ後尺ノ我国

ノ私ス所ノ糧食弾薬ヲ是ノ日本ニ問ヒ二万国ノ公法ニ拠ラス之ニ臨ムニ均勢必償ニアリ是日本一挙ヲ以テ両損ヲ奈何ソ眛テトシテ之ヲ思ハサルヤ○倘瓔日報　日本兵暫台近報　福州消息ニ云閩浙ノ名将李朝軍現ニ上諭ヲ奉シ台湾ニ至リ親カラ行テ師ヲ視以テ戦支ヲ決ス皇上日奏ニ閩兵ヲ調シ進テ台湾ヲ攻メ長駆直テ三人ヲ我援ヲ遮越シ師ヲ社席之上ニ過キシムルカ如リ絶テ阻スル所ナシト聞テヨリ赫然震怒シ特ニ疆臣ニ命シ馳セテ台湾ニ往テ進止ヲ斟酌セシム若シ其須ハス兵之助シ島ヲ秩ヒ之ニ依支スト云○歇后大臣沈葆楨四月廿九日ニ於テ砲艦十艘ヲ督率シ前テ台湾ニ行キ日本ノ統兵大員ト面談シ其ソシテ七日ノ中ヲ限テ師ヲ退テ台境ニ久淹スルヲ得ル勿ラシムト云○東瀛雨字日報曰昨日電報遞傳シテ国ニ至ラ㠯ヲ中国ノ人士一度兵ヲ台湾ニ用ルノ報ヲ聞クニ及ニハ九嘆膺ニ填主冠愛上リ指シ歯玉ヲ咬スル所海ニ薄テ同ノ仇トス前日日本公使京ニ至テ衙ヲ訪テ並ニ是説ヲ陳シ且閩浙ノ総督改ニ命ヲ奉シテ台湾ニ行ノ並ニ来タノ報ヲ日本ノ統兵大員ヲ見ス僅ニ砲弁ヲ遣テ文書ヲ投遞スルノミト日本ノ意中多ク美国ノ人有テ之カ主持ヲ為ス故ニ中国ノ官憲特ニ文ヲ美国ノ領支ニ移シ其挙止ヲ止セシメニヲ請ヒ而不偏助ノ義ヲテスヲ以テ仍ホ勿ラシム是ニ由テ之ヲ観レハ日本必当ニ師ヲ撤シ境ヲ離レヘキノニ非ラスハ生蕃ヲ伐ツニ非ラスシテ直チニ中国ト敵ト為リ日本ノ統師此ニ至テ進退維谷マラニ本国

既ニ多師ヲ益スノ念有ラスシテ隣邦特ニ大ニ討罪ノ辞ヲ
申シ其生蕃ノ已ニ兵ニ鋒ヲ交エン者モ亦聞ニ乗シ隙ヲ伺ヒ倶ニ
進ミ其殆キヲ之ヲ顧ミス清氏ノ師ニ比セント欲ス又聞ク日本電報ニ
云美国人ノ営中ニ在ル者意生蕃ト和ヲ約セント欲シ特ニ人ヲ遣リ
往テ之ヲ諭サシム而シテ生蕃酋長従ワス謂フ汝ニ託ニ来ル当ニ
共ニ城ヲ背ニ一戦スヘキノミト合好ノ説ノ命ヲ聴ク所ニ非ス母乃生蕃
毛亦殊ニ巌強ニシテ容易ニ恐リ近来生蕃ノ如クナラ
サル者正ニ復多少ナカラサルノミ
豊岡県士族依藤忠夫ヨリ臺湾友人ノ来報ヲ社ニ寄スルヲ左ニ録ス
我友同県士族浅村成幸陸軍試判所ニ仕ヘ以テ台湾ノ征討ニ従ヒ
歟掌多変ノ際寸分ノ公職ヲ窮シ親ノ見聞スル処ノ事情ヲ
托シテ遠ク之ヲ我国ニ投ス今彼地ノ教和続シ多ノ其変或ハ復出
晩報ヲ免レス且従来亦以テ憂国者ノ旁観ニ足ラン
厚志徒ニ一読アラン事ヲ恐ル敢テ黄社ノ嫁ヲ請ヒ以テ四方ノ憂国
者ニ報セント欲ス赤憂国一片ノ微心ニ
過日既ニ生熟両番旦ツ十八社中ノ十五社悉ク降服ヲ臨ノ三社モ不
日必ス平セン蓋シ過日ノ進撃彼等大ニ恐怖セシナラン故ニ皆衆
屋ヲ棄テ遠ク山渓間ニ潜匿シ未タ実蹤ヲ知ラス然ト我軍深
入ノ迫脅ニ不日其要領ヲ得ン且ニ血ヲ流シテ容易ニ平定スヘキヲ預ラメ
知ルヘシ已ニ此ノ諸差ヲ滅セハ復千万ノ動スノ変無ラン乙酉ニ閏ノ

支那政府使節ノ如キ我都督ニ謁雑談ス乃チ我邦公使
柳原某檣當矢論スベシト答ルノミニテ更ニ抗弁スルナシ○地質ハ
硫磺ノ如キ臭エシテ稲粱ノ四時ニ係ワラス生熟蚕豆ヲ見シハ果ノ
膏腴ナルカ○當ノ開ケル此地珊瑚木材野菜甚タ多シト人ヲシテ見ルニ
珊瑚ハ絶テ無之樹木ハ深山ニ至ルト雖モ蕃茂スト雖モ甚タ短小ニシテ椽
桷ニ一二尺余ニ至テ繁枝四生シ一モ材木ニ供スベカラス絶テ本邦松杉
檜等ノ良材ノ臭ヲ聞ス野菜亦甚タ多シト雖ヒ唯蔓菁ニメ似タル甘味ナル
似其質至テ粗ニメ毎節針多シ其用ヲ弁ス殆ンド稀ヒ○竹ハ本邦女竹ト称スル者ニ
頂上ノ一用ニ供スルノミ○土人日ヒ奇菜嘉糕雞卵魚豚等ヲ
廣ク且ツ未ダ嘗テ無キ價極メテ貴ク日用乏ク不自由勝ヘス○土人ノ
言ニ六月七月ハ炎熱忽チ八九八大雨土ヲ流ス○十二八大風ニシテ一二三四月ノ頃ハ
至テ佳気好景ニシテ旦ツ厳冬ト雖モ唯一ノ単衣ヲ用ヒ襲衣ニ及ヒス○當
時ノ温度九十二三度ヨリ八九度ニ上リ炎熱漸ク流行シ未タノ疫着ラサレハ感病入院ノ者已ニ三十名ニ至リ
○尚巨細報知セント欲スレモ遺稿定量アリ一人載ス乃ち越ルノ能ワス故ニ
意余リアレモ筆尽スノ能ワス唯大略ヲ摘記スルノミ又後信ヲ期ス 十日認
○廿一日晴ゴヨルナシ「ゴストン」丼。午ノ一。ハウス」同社人日本ノ師始ヲ
台湾ニ上陸セシ支情ヲ敘スルモノニ曰ク汽船「ヨコハマ」号昔昔
夕卅九時進テ琅嶠湾ニ入リ卅十字其錨ヲ投スル七日黎明一人ノ支
那訳官岸ニ登リ来リ土廿番ノ船上ニ誘ヒ謝スル日本ノ臺ヲ征スル

所以ノ意ト其軍令嚴明秋毫無
由テ之ヲ見レハ則千日本礼ヲ前ニシ威ヲ後ニシ謹恪ヲ支ヲ化スル者ト
云ツヘシ○卅六字訳意「ニヤリヤヨ」部落酋長ノ男及ヒ其親族数名
捧ヒ而メ迎ル此蕃族ノ嘗テ一千八百七十二年「ゼネラル。シャーマン」ノ
来島ニ於テ為ニ之カ鄉導ヲナセシ処ノ者ニ「リユテナント。カスセル」ヲ
シ恭ク延キ而メ語テ曰今日本其師ヲ臺嶋ニ送ルハ蓋シ一千百
七十七年ニ月琉球ノ漂民壮卅種族ノ蕃殺スル処メルヲ以テ天ニ膺懲
ノ典ヲ挙ケ斯以ニ爾曹来国領吏ト相約スルモノ曰ク来国ノ人民此
残虐ニ遇フアル則千爾曹心カヲ尽シテ以テ其讐ヲ鼓セント先テ此ノ
琉球ノ漂民ニ於ル毫モ其非命ヲ悔シト為ニ其死歓ヲ悟トシテ泰人

越人ノ肥瘠ヲ見ルカ如ク日本天皇陛下深ク之ヲ逆睹シ謀劃倘セ
テ余曹ニ及ホサントス幸ヒニシテ「ゼネラル。シャーマン」余曹ニ代リ
明ラカニ其意ヲ日本政府ニ質白ス是ヲ以テ疑団忽チ氷解セ又ツテ
夏ノ余曹ヲ撫恤スヘキノ命アリ日本政府ノ仁恵如此余曹卿ヲ感
戴セサルヘカラス日本征　臺ノ軍ヲ謂スル其数二万五千人警ヲ
厚スル則千一朝変至セントス然シテ其ノ振旅ノ其力ヲ尽シテ而メ日本ノ師ヲ援ケル日本僅ニ数千ノ兵ヲ用ヒ
而メ壮卅猾蕃ヲ勦滅スルニ足レリ余曹亦タ日本ノ恩誼ニ答フル
所以ノ者其効ヲ立ツルヲ以テ也ヲ山豈ニ偉ナラスヤ余曹以テ如何ト為ス遵
異ヒ同音之ニ答テ曰蕞尓タル臺蕃敢テ一層ノ力ヲ王師ノ軍前ニ効

元ヨリ海ノ襲フ処ニ非ス且ツ王師我地ニ登岸シ其陣柵ヲ築営スルニ至リテハ我軍意ヒ枝指スルノ患ナシト乞フ其擇ノ処ニ任セヨト議乃チ決ス

日本兵ハ固ヨリ番話ニ通セス故ヲ以テ番ノ変情ヲ聞得シハ其酋「トケトツク」死シテ其長子之ニ継キ其統下ノ番「ミヤ」及ヒ其他ノ一人ヲ撰ンテ今般日本ト其番ト好通ノ変ヲ理治セシノ日本将ヨリ賞賚アリ○諸酋ノ日本軍ニ来リ其営ヲ慰問スル者皆丹ニ発シ諸海岸ノ遍歴シ其内地ニ往来スルモ害ヲ被ムルモノナキヤヲ試ム其等ニ与シ賞物ハ「ミヤ」ノ如ク厚カラス其衣ハ服ハ厦門ニ住スル支那人ノ下輩ノ服同シクシテ

ヲ衣庶キ服ハ穿ツ其長ハ絶ヘ膝ヲ過ク戴ク所ノ帽大ニ頭頂ヲ蔽ヒ毛アル長キ獣尾ヲ垂レ色ハ紺糸ニ金銭ヲ綴ヒ辻シ眼ニハ粗ホ白眼ニテ製セシ物ヲ附ク「ベットルノット」「ベットルノット」ハ番語ニテ口ニ絶セス故ヲ以テ品ノ黒キカ「烟草ヲ飲シヨリ果ヲ含ミテ常ニ口ニ絶セス故ヲ以テ品ノ黒キカ「烟草ヲ飲シヨリモ甚シ「ベットルノット」ノ大ナル者ハ口ニ含ミテ枕ヲ容ル臺湾ノ番人ト厦門ノ支那人トノ言語凡倍大概相同シ独リ異ナル者アリ番人ハ常ニ「ベットルノット」ヲ嗜ミテ口ニ絶セス故ニ其歯唇黒キヲ以テ台湾番人ヲ知ルト云○八時ニ於テ日本営教人及ヒ西人利加人某等ト海岸ヲ巡見シテ其陣営ヲ築ノニ便ナル地ヲ擇ヲ是ヨリ衆相謀テ曰「リーテナントコロ子ルカツセル」ノ命ヲ奉シ台湾ニ上岸シテ番ヲ攻ム固旅ヲ以テ支那官人ノ或ハ不理ヲ論スルアルカ今登岸セシ

トスル地ヨリ遠ク南方ニ登山峠ヲ営ヲ築カ如キ此ニ至テ支那官人ノ之ヲ拒ニ於テ則敢テ兵威ヲ擁シテ登山峠ヲ固ヨリ遠キ南方地ハ支那ノ化外ノ蛮民ニシテ支那ノ之ヲ有ムモ敢テ妄ル処ニ非ス我之ヲ奪フガゴトクニシテ二国又兵ヲ接セサルヲ得ス一旦二国ノ兵ヲ接スルニ及テハ或ハ不測ノ変ヲ生スルモ亦未タ知ルヘカラス故ニ台湾島ヲ蕃ガ版図ニ属スルノ議ニ至テハ之ヲ去ヲ顧ミス一二生蕃ヲ誅懲スルノミニシテ二国ノ警隙ヲ生スルニ至ラサルヘシ預メ議スル所此ニシテ台湾島ニ至ルニ及テハ一モ敢テ吾ヲ拒ク者ナシ〇測量ノ小船一小河口ニ入ル者アリ其河口礁巌多クシテ頗ル舟ノ障碍ヲ為シ満潮ニ非サレハ河口ニ進ム能ハス河口ヨリ三十ル数丁ナラス其両岸ニ海軍壮隊ノ司令官ナル福島子爵ノ名造ル所ノ基礎ハ堅固ナル庭ニシテ屋上ハ草花ヲ彫刻セリ室中清潔ニシテ器物潔麗其他支那海岸ノ市都ニ住スル民人ニ比スルニ遥ニ優レリ台湾「シアリアヌ」ノ番人ハ皆漁ヲ業トシ其家屋ハ亦美ニシテ厦門支那人ノ家屋ニ比ニ非ラス毎家戸内ノ前面ニ必仏像ヲ安置シ番人用ル処ノ武器ハ頗ル粗ニシテ其鳥銃ノ如キハ制式粧古ニ拠リ帯ブル処ノ剣ハ短小ニシテ其堂ニ木ヲ以テ作リ終ニ其刃ノ方ヲ以テ包ム其他弓矢槍等ニシテ皆用ニ足ル者ナシ其人体ハ強壮ニシテ身形ヘ

門内ノ庭陰ニハ雞豚ヲ多ク畜ス土人食トスル外ノ雞豚魚類米黍薩
ナキ等ノ夏他水牛ヲ牧シ河辺ニ住ヲ家鴨ヲ畜フ其卵モ美ナリ
富地固ヨリ牛馬ナシ故ニ水牛二十人ノ用ヒテ負載ニ代耕耘ニ使役ス
最モ孝ノ厚ト云〇始テ尚長ノ家ヲ訪フヤ蕃ノ男女尽悌ノ色ナク
其我ヲ見ント欲シ来リ集ル者堵ノ如シ上等蕃ノ風俗ハ上章説ニ
陳ル所ノ者ノ如ク下等蕃ハ身ニ短褐ヲ被シ腰ニ綿布ヲ纏フ女ハ則チ
其衣裙簡長ノモノニ類スト雖モ其袒ヲ脱ニ銀輪ヲ環シ其髪ハ長ク之ヲ
編テ両ノ垂下シ光ヲ以テ飾ル花キヲ以テ其中ニ各異
ヲ抱キ乳ノ両ケアリ風采君子ヲ抽ク耳ニ金環ヲ垂シ服ニ金銀ノ
装飾ヲ設ケ顧フニ蕃中ノ貴女ナラン蕃女天然ノ容姿ヲ以テ酋長ノ

スト雖モ其口角汚レテ而ノミナラス赤黒色ナルヲ最モ厭フヘシ童子ハ其教頭ノ
多クハ七八歳ヲ過ル者モ其感覚漢然動作粗ノミナリ〇築営ニ便ナル
地形ヲ択ラント欲シ蕃酋ノ家ヲ出ヲ海濱ナル平麓其高ヲ約三百ヒートルモ
ノニ登ル此山路狭隘而ノミナラス礫確加ルニ日光肌ヲ焼キ日本ノ士官其草服
草鞋ヲ以テ頻ニ困疲セサルヲナシ纔其項上ニ達スルニ及テ始テ其四辺
ヲ眺望スレハ恨瑞金谷其中積十五マイルノ平地ニシテ山脈之ヲ囲繞シ其状宛
モ鍋釜ノ如シ兵麓ニ路径アリ蕃薯ノ畑間ヲ走リ逶迤屈曲三ノ小
村落ニ達ス此村落ハ蕃キニ過キス雞豕ヲ外ノ者ニテハ遠ニ数字ノ村中左右ニ檐ヲ
矮低金ルニ泥土ヲ以テシ茸ルニ芦草ヲ以テス門外荒地アリ砂礫相雑シ
地味甚タ悪シ樹林ハ則チ小椰子樹多ク生ニ居リ荊棘藤蘿欝茂深キ

ヲナシ人之ヲ穿ツ能ハス最モ休ヲ設ケテ敵ノ狙撃スルニ便ニ故ニ之ヲ攻ント
欲セハ能ク其地勢ヲ審カニシ而メ兵ヲ用ユルニ非スンハ泉シテ不廻ノ災害ヲ招カン
トス○時ニ三発ノ砲声山下ニ響クアリ急ニ後首ニテ之ヲ望メハ一隊ニ三十人ノ
蕃族男女相混シ各手ニ軍器ヲ提シ将ノ旗幟ヲ掲ケテ先導ノ如ク驚ニ
以為ラク是レ生蕃ノ来テ我ヲ侵撃スルナラント然ルニ旌旗其色赤キヲ見ルト
盖シ赤旗ハ蕃族ニテ「ゼ子ラル。レ。ゼンドル」ト称ヲ結ヒ其親和ヲ表セン
モノニシテ且ツ此一隊ハ蕃人婚嫁之儀ニシテ其列ヲ正シ此村ヨリ彼村ニ至ル
所ノ者ナルトキハ衆乃チ其心ヲ安ンス○時ニ袖鐘午ナラントシ日輪高ク天中ニ
アリ衆頗ル熱ニ苦シム此ニ於テ山ヲ下リ村ニ還リ酋長(ミヤ)ノ家ニ入リ午熱ヲ
消ス時ニ生人一隊ヲ屠リ午餐ノ備ヲナサントス用意頗ル慇懃衆見テ故ニ

警ヲ設クルト為スヤ拿ノ之ヲ謝シ大ニ其情ヲ喜ヒ敬テ之ヲ辞セス之ヲ料理ス
ルニ至テ頗ル長ク漸ク午後ニ至テ初メテ調ヒ衆之ヲ食スルニ及ヒテ生人其償ヲ求
ム是ニ於テ相交スルヤリ日影漸ク西シ涼気稍
生スルヲ以テ又(ミヤ)ノ家ヲ出テ猶亦タ地ヲ擇ヒ日暮支那人ノ通ヌル
留リ宿ス翌廿二日ニ帰テ泊ス○此間ヨリ○ニ続ク

檣濱ガゼットヒ号新聞ニ曰ク廿日長征南ノ師琅嶠ヲ発シテ已ニ卑
将ニ土蕃ノ談判セントス故ニ支那政府ハ盛京ノ臺湾ニ遣リ以テ警備ヲ増スノ説
アリト○又云天津六月十日ノ申報ニ云ク皇清ノ閒亟奉稍穏和ニ属スルヲ以テ
諸新聞ニ言ヘルヲ以テ考ルニ支那人ノ議ズルハ戦ヲ先クニアリ夫レ此ヌタル
初メ支那人ノ不決識ニ起ルヲ以テ若シ日本師ヲ徴スノアルハ始ヨリ

支那政府ヨリ償ワサルヘカラサル何ヒナレハ支那政府當ヲ云フ臺湾ノ東辺ハ
我所領ニアラスト雖メ今其言ヲ違フノ故ヲ以テ本師ノ償ヲ支那ヨリ收ムレハ公
法事ノ直ニノ拡ムヘキモノニシテ外国人亦之ヲ非トスル者アラス○又云リーホ
ンナヤレノ兵四万台湾ニ向テ発スルノ命ヲ奉セリ蓋シ一時ノ流言ヲ傳フル
者ノ如シ然レ共今ノ支那ノ情態ヲ圖ルニ或ノ戦ヲ開カントハ決スルニ似ノリ○同
下旦本ノ軍艦来ノ多キヲ致サス故ニ支那人ノ台湾ニ上陸スルヲ聞リ恐ク當
ニ防ノ能ハサルアルヘシ而メ支那政府ハ更ニ軍艦ノ製造セニ為ノ將ニ
ニ百万市ヲ費ヤサントストカ云ヘリ○又云支那ノタイリー新聞ニ曰ヘラ
「バーク」船「イーグレット」号ハ六月十二日台湾府ヲ発シ月曜日ニ於テ承
港ス其説ニ曰英国ノ船「ドウアルフ」号ハ是船ニ合セン為ノ浪瑞ニ発向スト又
他ノ船ノ長崎ニ返ルニ及テ得ル所ノ新聞ハ已ニ前日記載スルヲ以テ此ニ畧ス六月
昔ヨリ十日ニ至リ福州ヨリ二度ノ支那軍艦来着ス其風傳ニ云ヘリ支那帝特命
使節ノ来ルニ及テハ當ニ日本ヘ出師ノ費ヲ賠ヒ且旋兵ノ議ヲ云ヘシトス又二十日
発ノ天津新聞ニ言フ所モ亦此ノ如シ福州都督ニ因テ賠ル所ノ軍人ト固ヨリ其土
寇ヲ平定セシカ為メニシテ敢テ日本ト兵ヲ交ルノ意ニ非スト雖メ北方ノ流傳ニ聞ヘ
ハ軍艦ヲ台湾ニ返ルヲ以テ皇清兵ヲ台湾ノ港内ニ接ル者ニテ近キアリト
云議尚ホ迷惑セシム
横濱ガゼットニ六月二十日台湾ノタカー」ヨリ報スル所ノ真情ヲ採録スルヨリ畧征台
ノ師畧ホ其功ヲ奏シ牡丹灣蕃ニ勦撃セシ其巣窟ヲ捨テ何地ヘ逋匿セ
シヤ尓来其ノ跡全ク地ヲ掃ヒ其部落ハ既ニ日本ノ掌握ニ歸スト而メ琅璫以南ノ

十六種モ亦日本ニ降和シ日本艘ヲ以テシ互ニ相親睦シ相隔意セサルヲ盟フ○琅嬛ノ北約三里ヲ距テ一村落アリ「ハンカン」村ト称ス琅嬛ト同ク支那化外ニ住シ而ノ陸路梗塞北部ト相通スル能ハス毎ニ糧窶ノ残毒スル所ノモノ(常ニ藩政ヲ服セサルノ意ヲ云フ故ヲ以テ)以テ其村民等日本ノ手営ニ詣リ而メ乞ヲ白糞ノ如キ事ヲ為シテ而メ我曹ヲ保護シ救ヒ高フシテ過活セシメヨ此ノ如キハ則チ黄国ノ恩沢実ニ洋海ヨリ深ク我曹カノ柔弱ノ痛ヒヲ以テ其労ヲ酬ヒント尽ク軍士ノ仕役ニ供シ単食壺醤ヲ以テ乃チ其ノ乞ヲ許シ而シテ兵ヲ遣リ之ヲ守ラシム○新ニ営ヲ「エストポコースト」ニ設ケ兵ヲ布ツテ之ヲ戍ス此島ハ広潤僅ニ四里ニ満タス其南境ニ支那轄治ノ一小村アル所「○」デルノ「船脈也長崎ヨリ来帆ス其廠ス所兵餉軍資ノミ敢テ一兵卒ノ柔弱者アラス○支那ノ高官「ここ」氏「パこ」氏「ギクヨール」セゴンサ

ツクノ両氏ハ件ヒ台湾ノ府ニ来ルニ「ここ」氏ハ歴ノ任ヲ以テ「ここ」氏ハ欧羅巴ノ領事ニ擢ンテ「ここ」氏ハ欧羅巴ノ領事ニ擢ンテ領ス故ニ日本ノ名爵ト台島ノ支那ニ譲シ後急之ヲ召還スルカ如キ蓋シ此人ノ心ニアリ輿論由テ以為ラク日本其兵ヲ損シ其財ヲ耗シテ而メ略取セシ所ノ土地ヲ以テ支那ニ委ス歟ト千ヲ拱シテ之ヲ支那ニ委セシヤ然ルヨリ支那漁テ之ヲ争ハ、則チ兵端将タ之ヨリ発セント惟フニ天然日本全ク其談討ノ十ヲ了シ而メ若シ支那ヨリ其遠征ノ費用ヲ償補スル者アラス必ス喜ンテ其師ヲ旋スヘシ然シ支那能ク之ヲ旨ニスルヤ否トハ之ヨリ得テ知スヘキニ非ス唯日本ノ為ニ計フハ台ノ地タルヤ土壌磽确山谷嶮峻河海ニ良港ナシ而ノ天気過熱日本政ヲ之ヲ願スト雖モ果シテ何ノ利益アリヤ不如(寧)経費ヲ損セス振旅シテ而メ其国ニ帰ク其名正シク其支順始終両全ノ美挙ト謂ツヘキナリ

本月二日横濱ガセット三向ノ日午征台ノ師此頃ハ専政ノ命令至ルヲ待チ敢テ復ヒ
攻戦セス暑氣凱旋セントスルノ状アリ已ニ恐ルヘキ法一挙当テ支那日本両国ノ間談論頗ル
昂激シテ以テ結局頃ニ年寧ナラニ了容易カラサルヘシ○日本支那両国ノ間兵端
将ニ開ケントスル所傳説アルヲ以テ横濱居留ノ支那人民挙ツテ日本政府
ヨリ其国ニ退去ヲ命セラレンカト疑ニヌヲ恐レニヌヲ憂フトニヌノ○又曰昔テ英国
アヒヤンテー
△別報○ノ続キ　近日土蠻ト兵丹ヲ構スト無氏瓊ニタル一二ノ小戦ニ
過キス昔十七日一隊百人ノ兵丹候トシテ琅璫営ヲ距ル為一里ノ山間ニ進ミ
前僅ニ数十ノ蠻テ一族ノ茅舎林端ニ露セルヲ見ルヤ十二人ノ兵本隊ト
相分レ其村落ニ入テ小憩シ而ノ帰ルヤ了ニ砲声背後ノ等陰ヨリ発シ弾丸
雨射一人為ニ斃サレ二人其首ヲ傷ツクヲ以テノ余衆敢ノ多寡ヲ察シ且
ツ其在処ヲ知ラス不意ニ起ルヲ以テノ余衆敢ノ多寡ヲ察シ且
ツ其在処ヲ知ラス不意ニ起ルヲ以テノ余衆敢ノ多寡ヲ察シ且
既ニ我死者ノ頭ヲ刎シ其衣服軍器ヲ剣キ去テ而ノ蹤跡無シ衆乃チ千ヲ
率シテ営ニ帰ル後チ此歌ノ営テ一千八百七十二年我ニ十四島ノ蠻民
ノ残殺セシ惨虐ヲ謂ヒ丹種ナル者ノ十ノ九ヲ殺シ尽セリト云ヲ聞キ衆愈憤懣ニ堪ス二十日一隊
ノ兵前日ノ村落ニ進入シ尚未タ獲リ蠻族ノ所為ニシ否ヤヲ糺サントス先ニ此村民
兵燹ヲ怖レテ既ニ避匿シ該村寂寞ノ人語無キヲ以テ又山ヲ撃チ潤ヲ渉リ次キノ
村落ニ到ラントス益ス内地ニ進ム営ヲ去ル弥四里ノ地ニ於テ不意ニ土人ノ為ニ
襲ハレ一隊鳥銃一斉発ノ下ニ於テ多ニ之ト相撃チ一隊鳥銃一斉発
ノ下ニ其一人ヲ殺シ餘ハ傷者ヲ負ヒ各鳥

數ノ如クニ敵ス土人ノ隊ヲ計ルニ後ニ五人ニ過キス轟クヲシテ合砲ヲ発シ其
衆ヲキノ捷勝ニ乗セラレ進ンテ戦地ニ逼ル其軍ヲ計ルニ二百五十人ニテ後五時過キニ
至テ初メテ戦地ニ達スル其中ヨリ番ノ銃撃ニ逢フ屁セス前隊ノ兵之ニ
面テ疾進ム番抗スル能ハス相距ル遠シテ一人ヲ見ス天亦暮ナントスル故ヲ以テ之ヲ
追フ軍ヲ分テ二トシ為シ一ハ山下ニ留テ番ノ攻撃ニ備ヘ一ハ本営ニ帰ル此ニ
戦場ハ牡丹番ノ屈地ニ非ス皆琅璫人ニ属ス琅璫人ハ先ニ既ニ日本ニ服従セシ者ニ
故ニ此地ニ抜セシハ牡丹人ナレハ亦明ラカニ予ニ〇昨朝大砲隊ヲ送リ先キニ到駐
セシ兵ヲ助ケ不意ノ変ヲ守ラシム番ノ山号間ニ出没スルヲ見進ンテ之ヲ撃ントス
然ルニ山路険隘ニシテ進行苦シム此ニ於テ初テ合戦ト称スヘキ戦ヲ為セリ
〇初メ牡丹人ヨリ聞ク所ニ拠レハ五十人ノ多キヨリ此ニ至テ吾レニ抜ク者ヲ見ルニ
其衆寡ノ七十五人ニ過キス初メテ其吉ノ信ナラサルヲ知ル然レトモ其険ニ拠リ
死守スル故ヲ以テ日本兵ノ之ニ向者二百人ノ多キヲ以テ甘進行スル能ハス
独リ戦ヲ得ル者ハ前隊三十人ニ過キス余ハ空ク之ヲ看望スルノミ相戦フ
殆ント一時番遂ニ敗走ス此後ニ番ノ死スル者十六人ニシテ傷ク者
卅二在リ日本兵ノ死スル者ハ六人ニシテ其一ハ官人ニシテ其余傷ヲ被ル者殆ント
人多ク軽傷ニ属ス卒ニ将ニ近日偕賀ニ於テ功ヲ奏セシ佐久間某ク
皆リ後十大将西郷氏長崎ヨリ至ル其船落ニ入ルニ当テ支那軍艦モ亦北京ノ
命ヲ頒ケ来リ午後至テ同ノ艦ヨリ祭砲ヲ発シ其賀儀ヲ速フ両国ノ艦互ニ砲ヲ発シ
物議ノ信ス可キニ足ラサルヲ証スルニ足レリ〇七月七日付古海ヨリ長岡ノ書面
同廿四日相着
前月十九日及卅一日ノ報及ヒ本ノ概況左ノ如シ午前十時清国蒸気軍艦飛

雲呂大安湖ヨリ二艘入港百餘名直ニ五六度ノ筒丼ニテ官吏矢来ヲ守
四十人許上陸一車城ニ向ス二十日午前九時三十分清国欽差全権
台湾ヲ安宣福建布政使潘霨同欽命帯兵
献倫同欽加二品衛候補知府特授臺防同知謝寶明等福建造船場雇佛
帝西人新茶墓格(ゴッデッ)日意格等各自之ヲ其名刺ヲ投シ且清国欽差兵台湾ノ
等處海防兼理各国交渉大臣総理船政沈氏ヨリノ照会公文一封ヲ出シ
ヲ八時乗輿警蹕シ銅鑼ヲ鳴シ兵隊ヲ従ヘ琅嶠
本営ニ来會ス於是都督参謀等面晤多少之要件ヲ
正午十二時潘臺等一同退営ス午後九時都督参謀等車城ヘ赴キ潘臺等ヘ
面晤又多少之応接有之路之二十四日潘臺等車城之富居ヘ生蕃頭人
二十六名ヲ招集シ清国詔勅之文書ヲ始メ二十日潘臺等
三人亀山之本営ニ到ル都督参謀ト面晤又多少之応接有之亦略之鳴呼彼酋之
我着手ノ後ヲ待テ虎威ヲ假リ以テ孤智ヲ生蕃ニ施サント欲ス其情是憐ムヘキ
婦ニシテ不覚者乎雖然我政ニ實地現場之事業卓ヲトシテ不動ニ於テハ彼能ク
ル長辻原之議論ヲ以テ相逼ル足ラサル儀ト思案仕リ尚向後彼ノ
談判都合ヨリ結局為仕度様祈望ニ不堪候三十日廈門発電ニテ
社之降伏勅額書并ニ頭人ノ衣裳等ヲ携ヘテ来営セリ本日琅嶠ヲ亀山本営
ヘ転移當外ハ西海ニ面シ高嶺之奇地ニテ實ニ流動宜シキ所作ノ健康一ノ全ク
結構ニ増加シ殆ト邑ヲ成スノ景況ニ七月廿日午後廿五時依ノ間参謀多田武判
権評事等傭庄楊家ヘ出張廿六日乃高士佛ニ頭人乳津ノ礼ヲ受政務従

四顧シテ青山緑海行ラノミ一ノ栗宇ナシ僧ノ如キ
完衣ヲ着シ終日読経シ家族ノ如キ
楼閣ヲ構ヘズト（臺湾ノ亀山営ニストル）
ノ来翰ニ曰六月二十日黄昏清ノ軍艦二艘北方ヨリ颯来シ我営ヲ
距ル二英里琅嶠湾ニ投錨シ而メ使ヲ我営ニ送リ清国欽使二名其
政府ノ命ヲ奉シ日本提督ト相会シ以テ日今臺島ノ処ヲ協議シ且ツ
将来経画ヲ定メント欲シテ而メ来取セル十ヲ演シ二総督即千明天ヲ
以テ相謁セント答フ 二十日昧早清使登陸スル我営薩列隊ハ旧装ヲ
打チ他隊ハ欧服ヲ扮シ以テ之ヲ海岸ニ迎ヒ旧営ノ北一英里（千ヤシアン）村
ニ護送ス其隊位整粛恭敬秩然（ミストル、ギノヨール）驚キ且感メ曰

豈料ニ十日本兵其虚ニ度リ周旋法ル欧列ノ兵士ト異ル能ク之
ニ加フル莫ラントハ○清使（千ヤシアン）ニ小憩シ而メ我営ニ来ル総督
西卿氏既ニ先ニアリ各礼ヲ施コシ相揖譲シ而メ座ニ就ク一方ハ清使即千
列郡副都督次ハ臺湾道憲及ヒ佛人而メ清ノ客卿即千長ク兵職ヲ
福列造兵省ニ奉シ最モ清国ノ信任ヲ得タリシ（ミストル、ギクアール）ミス
トル、ドゼゴンザック四雅列スト一方ハ独リ総督西卿氏ノミ○既ニシテ清使
言ヲ発シテ曰我列郡都督前福列造兵省長沈葆楨正使トシテ此島ニ
来航シ不幸病羅ツテ台湾府ニ駐滞スル五ヶ月ノ時日ノ遅延セシヲ恐シ
僕ヲシテ彼ニ代リ以テ其任ヲ全理セシム敢テ問フ君最ニ僕書命ヲ奉行
ニ奉シ貴国使節柳原氏ハ北京ヘ登駕ノ途偶マ上海ニ邂逅シ而メ相互

答セし処ノ文書ヲ得メリこや總領曰未し清使曰貴国罪ノ師ヲ発スルヤ預メ敝邦ニ報スルアラハ敝邦モ亦兵ヲ勒し相助ケラ而メ極盡ヲ尽スヘキニ其之無キヲ以テ現ニ兵馬ヲ発スト雖モ民貴国ニ既ニ其功ヲ奏し我邦ニ株儒ヲ失し復ノ用ニ処サし總督曰ノ如此キハ我政府嘗テ貴国政府ニ申報し且我大使副島ナル者客歳貴国ニ至リ總理衙門ト詳ニ之ヲ確議スル処アリハ則貴国ノ挙動ハ暴ニ北京ヨリ使人ヲ以テ別郡ヘ発遣スト雖モ民北京福州間道路遼遠且険悪数十日ヲ経テ始テ達し乃チ支那ニ後レし而以テ別郡回君僕ヲ以テ既ニ討臺ノ功ヲ奏セリトナスハ過テリ僕尚ホ此地ニ抵守し僕カ負荷セし処ノ責任ヲ尽さし而メ我政民ノ為将来ノ安

寧ヲ経畫セサルヘカラス清使曰尊論尤モ理アリ君其教ヘン処ニ随ヒ尚ホ駐ツテ而メ支ヲ計畫スルモ亦敢テ妨ケ無し然し民台ノ全島ハ開ノ地ニ実ラス概メ我隷属メンヨリ以テ一千八百七十一年琉民ヲ残害セし者ニ至テハ剛千僕自ラ其罪ヲ正さ其余善ヲ褒し悪ヲ懲し暑ホ寛地ヲ鎮撫スル是我政府ノ僕ニ委子し処ノ命而メ僕カ行フ当キ本務ニ○台湾道憲傍ヨリ聞ク所ニ拠レハ貴国兵ヲ挙ケ台ノ東岸ヲ清国殖民地（ビラム）ヲ侵襲セシト欺スト知ラス果シテ真ニヤ否總督未タ蓋し總領ノ意固ヨリ如此企望アラサルヲ明カ論ヲ俟タス而ルニ之ヲ矢解ニ詰論ヲ要ニ渉ラシメンヲ慮リ敢テ着セサル所以ナリ○清使其嘗テ上海ニ於テ我使節柳原氏ト亦各ノ字録ヲ出シ之ヲ總督ニ示ス總督之ヲ讀ミ

柳氏曰ク日本征台ノ挙ハ唯牡丹蛮族ヲ誅滅シ而メ将来ノ害無ラシメント
欲スルニ在ルノミ故ニ全ク其功ヲ奏セハ則チ班ヲ回ラサスシテ其師ヲ旋カシト
其言丁寧反復シ清使乃チ曰君尚
何等ノ賢策ヲ施サントスルヤ希クハ
見アルアリト亜氏憮然揺山岩ニ潜匿シ而メ我兵南台諸部ヲ警戒シ
支来ヲ全リ鎮靖セサルヨシヲ以テ今頒メント其措置ヲ漏池シ旌シ清使曰我皆
僕ニ命スルニ海台島ニ赴キ力ノ至ル処ヲ尽シ以テ皇ノ師ヲ援ケ使カニ
平定ノ功ヲ奏セヨト故ニ憮然来メ夷滅セスンハ則僕亦メ吾ヲ勅シテ之
ヲ勦撃シ聊貴国ノ援助ヲナサント鴻章曰僕我政府ヨリ討蛮ノ特命ヲ
ヲ領ス故ニ之ヲ行フノ秩リ僕ノ貴ニ非ス貴国ノ援ヲ要セス神ノ僕先地ニ

叅陸セシヤ土人清国言語ヲ善クスル者ニ問ケルアリ彼等ハ来ク曾テ
清国ノ轄治ヲ受ケスト雖メ猶蛮ナルヲ以テ其搏
噬ヲ恣ニシ残害至ラサル処ナシ然ルニ人ナキヲ以テ其搏
ヲ得ハ実ニ一国ノ幸ニシテ僕既ニ之ヲ剿除スル
台人民ノ仰望ニ副ス其支十二八九ハ成ス今ニ至テ他ノ援ヲ得ルヲ
之ヲ何トカセント清使佛人丈モ之ヲ要スト雖モ総督断然謝絶シ曰
南台ノ支ハ皆ヲ副島氏北京ニ於テ決議セシ処ノ者ニシテ両国間ノ
事変ニ当リ我輩一ニノ議論ヲ以テ毫モ之ヲ変更スルヲ得ヘカラス貴国若シ要
スル処アラハ則チ貴国政府直ニ我公使ト討議スヘキノミト告議即
決セスシテ歌ム又二十四日ノ再議ヲ約シ清使乃チ(チヤシ)村ニ還ル

十月二十日西卿總督（千ヤシロ）村ニ行キ清使ノ旅舘ヲ訪フ蓋シ昨日ノ来営ニ答フルノミニ非ス敢テ国交ニ及ハサルニ（ヲスクト）ノ事ヲ以テ行ニ敢テ（ホクメン）（ノスクト）ノ畏ニ入ラサルニ（スワイ）ノ如キ其酋長温和ナル部落ニ於テ容易ノ其足ヲ容レ一ヲ得タリ且ツ贈饋ヲ斎ラシ使ヲ馳セテ内部諸酋ノ酋長ヲ招ク二其倍阜陋俠離氏清国相傳ヒテ狼戻トナセルカ如クナラス始テ其須従相親ムヘキヲ見ルト是畢竟日本人ノ之ヲ恃腋セシ由ル不丕ニ清使豈ニ容易ク之ト相接スルヲ得ンヤ○清使此好ミヲ蛮酋ニ締フト雖モ日本将校之ヲ意ニ介セス深ク其所以ヲ探偵スルヲ勉メス顧フ彼レ痛ニ蛮族ヲ煽動シ復タ我兵ニ寇セシメントスルニ非サルヘシ

二十四日午後総督復タ清使ニ會ス其議論陸続延ラ二十五日黄昏ニ至リ稍ク其結局ニ至ル今其精詳ヲ盡録セント欲スト雖モ其機密ヲ洩ラシ徴アラス故ニ只其概略ヲ述ヘ清使ノ毒ノ全島其轄治スル所以ノ理ヲ弁駁シ且ツ日本ノ意唯穆宸ノ意ヲ懲シ将来ノ禍無キヲ保ツニ在ツテ毫モ清領ヲ略セント欲スルニ非スト彼レ論シ是レ敢テ其昂激スルヤ夜ル如キ清使ノ風来謹享持論平和総督ハ活達剛邁其談鋒稍鋭利過ク厳ニシ将来蛮族ヲシテ必ス其残毒ヲ逞シクセシメサラン而ノ其質ヲ貴国ニ送リ以テ是ノ證セシ総督曰ク貴国賀ヲ我ニ送ルト雖モ之ニ報ユルニ以テ貴国ヲ信スル能ハス清使曰ク何ノ故ソ

總督曰ク柳ヶ南台ノ変ニ於ルヤ貴国為ス所又復袁裏ニシテ尼ノ詐偽ニ出テタルハ無ヒ曾テ我国民窓ノ屠殺ニ遇シ以来既ニ二ヶ年ヲ経貴国政府恬トシテ知ラサル者ノ如クニ今ニ至リ之ヲ討スヘシ貴国ノ任ニアラス是其一ナリ曩ニ生蕃ヲ懲治スルヤ曾テ我政府ヘ照会セス今強チニ之ヲ要スル是其二ナリ八百七十二年窓ノ我琉民ヲ害セシヨリ我政府屢ヽ罪ノ貴国政府ニ通報スルニ我報当ヲ得ノ時期ニ於テセサルヲ以テ貴国ヨリ兵ヲ我ニ発シ以テ懲邪勦討ノ労ヲ援ケル能ハサルニ至ルト是レ其三ニ此数点ヲ以テ考フレハ貴国政府ヨリシテ假令生蕃ヲ統馭セシムルモ将来其博噬ヲ恣ニセシメサルニ言ヲ至ツテハ侵漸益之ヲ信セサル所以ナリ清使之ヲ聞キ満顔朱ヲ注キ怒髪冠ヲ衝キ憤然トシテ譯官ヲ罵リ曰ク苟モ三軍ノ統将トシテ豈如此暴言ヲ以テ外邦使節ニ加ル者アランヤ是レ必ス卿カ誤譯ニ因リ何ソ粗忽ノ甚シキヤト総督之ヲ慰藉シテ曰ク決シテ譯官ノ罪ニ非ス僕貴国ト約ヲ定メント欲スルニ厳信ヲ以テセサルヲ以テ之ヲ責ムルノ意ヲ吐露セシ所以ニシテ君之ヲ愉シトセス如何ソ其気自ラ抑制スル能ハスシテ暫ク之ヲ措キ他日ヲ俟テ復ヒ之ヲ論セント乃チ風清稍ク収リ談又平和ニ復ス総督曰ク夫邦遠ノ師ヲ海外ニ興シ而モ其功未タ遂ケス貴国ノ為ニ覚束ノ疑ヲ懐カシムルカ如シ其損将タ之ヲ如何セント答ヘテ曰ク貴ヲ償却セハ清国其信ヲ徴スヘシト遂ニ於テ清国ヨリ日本分銀ノ最モ確実ナルモノヽ如キニ至リ二十日黄氏皆其議論ニ結局シ又

方権ニ其綱領ヲ定ム其條目ノ
第一　征臺ノ役日本一切ノ軍費ハ清国政府之ヲ償却スヘシ
第二　清国政府嚴ニ臺臺ヲ制馭シ将来決メテ人ニ害セシムヘカラス
第三　前条ノ約議決定セハ乃チ日本在臺ノ軍ヲ撤スヘシ
清使曰ク此約議ハ我政府之ヲ好シ必ス貴国所需ノ軍費ヲ償ハン
ニ僕亦力ノ至ル所ヲ尽シ以テ之ヲ経紀スヘシト為替ホタ日両国
政府ノ本約議決定迄ハ敢テ臺蕃ヲ勦討セサルコヲ訖ス
二十六日清使臺府ニ返ル前日大風雨清艦琅璫湾ニ在ルモノ殆ント
覆没セントセシヨリ以テ毋子倉皇陸ニ登ラントシ為ニ溺ル者多シ艦
ニヲ得ス風ニ随ツテ北方ニ漂走セル故ニ清使臺ヲ陸ニ取リ甲英里

ヲ隔テシ（タコー）ニ向ツテ去レリ」顧フニ日本在臺ノ師
前ノ勿議固定スルニ至ラハ旌旗堂々トシテ其国ニ凱旋シ初メ
巣論臺ト非戦セシト雖モ又大ニ其栄ヲ四方ニ耀カスヘシ
日本勦臺ノ挙タル啻ニ其国民ノ害ヲ除キシノミニ非ス蓋シ泰西
各国ノ旅者ト雖モ其公余沢ヲ被リ将来啖食ノ大患ヲ免レ而ノミナラス
曾テ近日ヲサル所ノ地ニ毋ヲ艤スルヲ得シハ実ニ日本功績偉且ツ大
ナリト謂フヘシ